



# 8 故障かな? と思ったときは

---

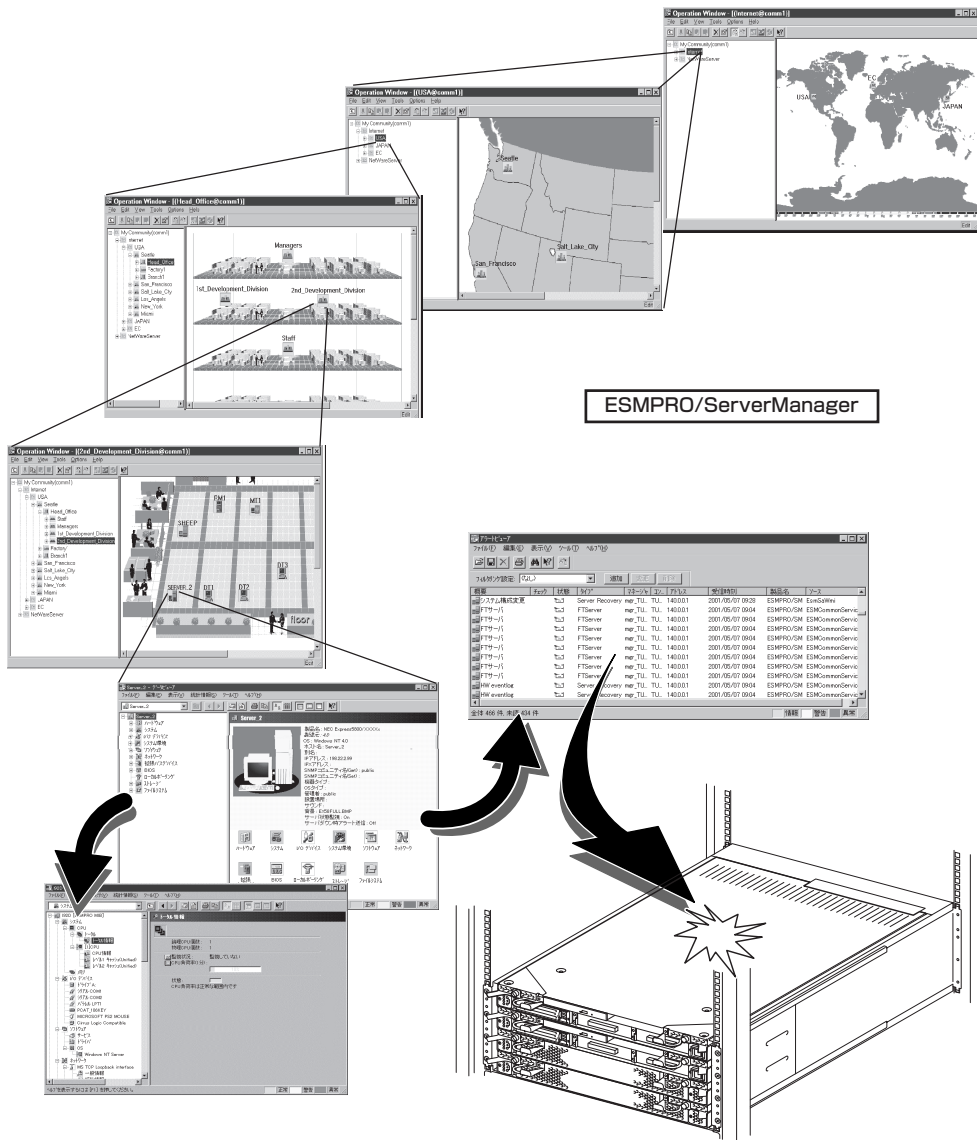
Express5800/ftサーバが思うように動かずに「故障かな?」と思ったときは、故障と疑う前にこの章を参照してください。

# 障害箇所の切り分け

万一、障害が発生した場合は、ESMPRO/ServerManagerを使って障害の発生箇所を確認し、障害がハードウェアによるものかソフトウェアによるものかを判断します。

障害発生箇所や内容の確認ができれば、故障した部品の交換やシステム復旧などの処置を行います。

障害がハードウェア要因によるものかソフトウェア要因によるものかを判断するには、ESMPRO/ServerManagerが便利です。



サーバ/ワークステーションの障害発生箇所、および障害内容を確認

# エラーメッセージ

Express5800/ftサーバになんらかの異常が起きるとさまざまな形でエラーを通知します。ここでは、エラーメッセージの種類について説明します。

## ランプによるエラーメッセージ

Express5800/ftサーバの前面や背面、ハードディスクドライブのハンドル部分にあるランプはさまざまな状態を点灯、点滅、消灯によるパターンや色による表示でユーザーに通知します。「故障かな?」と思ったらランプの表示を確認してください。ランプ表示とその意味については2-16ページの「ランプ」をご覧ください。

## 液晶ディスプレイからのエラーメッセージ

Express5800/ftサーバの液晶ディスプレイは、Express5800/ftサーバの状態を随時表示します。エラーが起きると液晶ディスプレイにはエラーメッセージが表示されます。液晶ディスプレイに表示されるメッセージとその意味、対処方法について次の表に示します。



本製品は、本体前面に液晶ディスプレイがありませんが、MWAまたはESMPRO/ServerManagerから確認できます。

### MWAおよびESMPRO/ServerManagerからの確認方法

- MWA

確認したいサーバを選択して、サーバメニューから[BMCダイアログの起動]を選択してください。BMCダイアログボックス上にサーバの電源状態やステータスランプの状態とともに液晶ディスプレイの状態が表示されます。

- ESMPRO/ServerManager

統合ビューアから確認したいサーバを選択して、データビューアを起動します。データビューア上で確認できます。

表示	STATUSランプ		対象モジュール	意味	対処方法
	色	状態			
= A =					
AmbientTempAlm00	アンバー	点滅	CPUモジュール	温度 (下限値) 異常警告	保守サービス会社に連絡してください
AmbientTempAlm02	アンバー	点灯	CPUモジュール	致命的な温度 (下限値) 異常	
AmbientTempAlm07	アンバー	点滅	CPUモジュール	温度 (上限値) 異常警告	
AmbientTempAlm09	アンバー	点灯	CPUモジュール	致命的な温度 (上限値) 異常	
= B =					
BMC Unsync	—	—	PCIモジュール#1	BMCの同期が取れない	保守サービス会社に連絡してください
BMC0 Not Ready	緑	点滅	PCIモジュール#1	PCIモジュールのBMCが切り離された	しばらく続くようでしたら、保守サービス会社に連絡してください
BMC1 Not Ready	緑	点滅	PCIモジュール#2		
= C =					
Cor0 +12vAlm 00	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	+12V電圧 (下限値) 異常警告	保守サービス会社に連絡してください
Cor0 +12vAlm 02	アンバー	点灯	PCIモジュール#1	致命的な+12V電圧 (下限値) 異常	
Cor0 +12vAlm 07	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	+12V (上限値) 異常警告	
Cor0 +12vAlm 09	アンバー	点灯	PCIモジュール#1	致命的な+12V (上限値) 異常	
Cor0 +2.5vAlm 00	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	2.5V電圧 (下限値) 異常警告	
Cor0 +2.5vAlm 02	アンバー	点灯	PCIモジュール#1	致命的な2.5V電圧 (下限値) 異常	
Cor0 +2.5vAlm 07	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	2.5V (上限値) 異常警告	
Cor0 +2.5vAlm 09	アンバー	点灯	PCIモジュール#1	致命的な2.5V (上限値) 異常	
Cor0 +3.3vAlm 00	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	3.3V電圧 (下限値) 異常警告	

表示	STATUSランプ		対象モジュール	意味	対処方法
	色	状態			
= C =					
Cor0 +3.3vAlm 02	アンバー	点灯	PCIモジュール#1	致命的な3.3V電圧 (下限値) 異常	保守サービス会社に連絡してください
Cor0 +3.3vAlm 07	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	3.3V (上限値) 異常警告	
Cor0 +3.3vAlm 09	アンバー	点灯	PCIモジュール#1	致命的な3.3V (上限値) 異常	
Cor0 +3.3vsAlm 00	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	3.3V電圧 (下限値) 異常警告	
Cor0 +3.3vsAlm 02	アンバー	点灯	PCIモジュール#1	致命的な3.3V電圧 (下限値) 異常	
Cor0 +3.3vsAlm 07	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	3.3V (上限値) 異常警告	
Cor0 +3.3vsAlm 09	アンバー	点灯	PCIモジュール#1	致命的な3.3V (上限値) 異常	
Cor0 +5.0vAlm 00	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	5V電圧 (下限値) 異常警告	
Cor0 +5.0vAlm 02	アンバー	点灯	PCIモジュール#1	致命的な5V電圧 (下限値) 異常	
Cor0 +5.0vAlm 07	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	5V (上限値) 異常警告	
Cor0 +5.0vAlm 09	アンバー	点灯	PCIモジュール#1	致命的な5V (上限値) 異常	
Cor0 +5.0vsAlm 00	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	5V電圧 (下限値) 異常警告	
Cor0 +5.0vsAlm 02	アンバー	点灯	PCIモジュール#1	致命的な5V電圧 (下限値) 異常	
Cor0 +5.0vsAlm 07	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	5V (上限値) 異常警告	
Cor0 +5.0vsAlm 09	アンバー	点灯	PCIモジュール#1	致命的な5V (上限値) 異常	
Cor0 -12vAlm 00	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	-12V電圧 (下限値) 異常警告	
Cor0 -12vAlm 02	アンバー	点灯	PCIモジュール#1	致命的な-12V電圧 (下限値) 異常	
Cor0 -12vAlm 07	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	-12V (上限値) 異常警告	

表示	STATUSランプ		対象モジュール	意味	対処方法
	色	状態			
= C =					
Cor0 -12vAlm 09	アンバー	点灯	PCIモジュール#1	致命的な-12V (上限値) 異常	保守サービス会社に連絡してください
Cor0 Bus PERR 01	緑	点滅	PCIモジュール#1	PCIバスのパリティエラー	
Cor0 Bus SERR 01	緑	点滅	PCIモジュール#1	致命的なPCIバスのエラー	
Cor0 CLK Alm 00	アンバー	点滅	CLOCKボード	クロック (下限値) 異常警告	
Cor0 CLK Alm 02	アンバー	点灯	CLOCKボード	致命的なクロック (下限値) 異常	
Cor0 CLK Alm 07	アンバー	点滅	CLOCKボード	クロック (上限値) 異常警告	
Cor0 CLK Alm 09	アンバー	点灯	CLOCKボード	致命的なクロック (上限値) 異常	
Cor0 FAN Alm 01	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	冷却ファン1異常警告	内部のファンに埃やチリが付着していないかどうか確認してください。また、内部ファンのケーブルが確実に接続されていることを確認してください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください
Cor0 FAN Alm 02	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	冷却ファン2異常警告	
Cor0 FAN Alm 03	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	冷却ファン3異常警告	
Cor0 FAN Alm 04	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	冷却ファン4異常警告	
Cor0 FAN Alm 05	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	冷却ファン5異常警告	
Cor0 offline	緑	点滅	PCIモジュール#1	PCIモジュールが論理的に切り離されている	切り離されているモジュールをレサ-ハブユニットリテイで起動してください。または、モジュールを一度抜いて、再び実装し直してください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください
Cor0 removed	緑	点滅	PCIモジュール#1	PCIモジュールが外れている	モジュールを一度抜いて、再び実装し直してください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください
Cor0 Temp Alm 00	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	温度 (下限値) 異常警告	内部のファンに埃やチリが付着していないかどうか確認してください。また、内部ファンのケーブルが確実に接続されていることを確認してください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください
Cor0 Temp Alm 02	アンバー	点灯	PCIモジュール#1	致命的な温度 (下限値) 異常	
Cor0 Temp Alm 07	アンバー	点滅	PCIモジュール#1	温度 (上限値) 異常警告	
Cor0 Temp Alm 09	アンバー	点灯	PCIモジュール#1	致命的な温度 (上限値) 異常	

表示	STATUSランプ		対象モジュール	意味	対処方法
	色	状態			
= C =					
Cor1 +12vAlm 00	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	+12V電圧 (下限値) 異常警告	保守サービス会社に連絡してください
Cor1 +12vAlm 02	アンバー	点灯	PCIモジュール#2	致命的な+12V電圧 (下限値) 異常	
Cor1 +12vAlm 07	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	+12V (上限値) 異常警告	
Cor1 +12vAlm 09	アンバー	点灯	PCIモジュール#2	致命的な+12V (上限値) 異常	
Cor1 +2.5vAlm 00	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	2.5V電圧 (下限値) 異常警告	
Cor1 +2.5vAlm 02	アンバー	点灯	PCIモジュール#2	致命的な2.5V電圧 (下限値) 異常	
Cor1 +2.5vAlm 07	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	2.5V (上限値) 異常警告	
Cor1 +2.5vAlm 09	アンバー	点灯	PCIモジュール#2	致命的な2.5V (上限値) 異常	
Cor1 +3.3vAlm 00	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	3.3V電圧 (下限値) 異常警告	
Cor1 +3.3vAlm 02	アンバー	点灯	PCIモジュール#2	致命的な3.3V電圧 (下限値) 異常	
Cor1 +3.3vAlm 07	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	3.3V (上限値) 異常警告	
Cor1 +3.3vAlm 09	アンバー	点灯	PCIモジュール#2	致命的な3.3V (上限値) 異常	
Cor1 +3.3vsAlm 00	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	3.3V電圧 (下限値) 異常警告	
Cor1 +3.3vsAlm 02	アンバー	点灯	PCIモジュール#2	致命的な3.3V電圧 (下限値) 異常	
Cor1 +3.3vsAlm 07	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	3.3V (上限値) 異常警告	
Cor1 +3.3vsAlm 09	アンバー	点灯	PCIモジュール#2	致命的な3.3V (上限値) 異常	
Cor1 +5.0vAlm 00	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	5V電圧 (下限値) 異常警告	
Cor1 +5.0vAlm 02	アンバー	点灯	PCIモジュール#2	致命的な5V電圧 (下限値) 異常	

表示	STATUSランプ		対象モジュール	意味	対処方法
	色	状態			
= C =					
Cor1 +5.0vAlm 07	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	5V (上限値) 異常警告	保守サービス会社に連絡してください
Cor1 +5.0vAlm 09	アンバー	点灯	PCIモジュール#2	致命的な5V (上限値) 異常	
Cor1 +5.0vsAlm 00	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	5V電圧 (下限値) 異常警告	
Cor1 +5.0vsAlm 02	アンバー	点灯	PCIモジュール#2	致命的な5V電圧 (下限値) 異常	
Cor1 +5.0vsAlm 07	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	5V (上限値) 異常警告	
Cor1 +5.0vsAlm 09	アンバー	点灯	PCIモジュール#2	致命的な5V (上限値) 異常	
Cor1 -12vAlm 00	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	-12V電圧 (下限値) 異常警告	
Cor1 -12vAlm 02	アンバー	点灯	PCIモジュール#2	致命的な-12V電圧 (下限値) 異常	
Cor1 -12vAlm 07	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	-12V (上限値) 異常警告	
Cor1 -12vAlm 09	アンバー	点灯	PCIモジュール#2	致命的な-12V (上限値) 異常	
Cor1 Bus PERR 01	緑	点滅	PCIモジュール#2	PCIバスのパリティエラー	
Cor1 Bus SERR 01	緑	点滅	PCIモジュール#2	致命的なPCIバスのエラー	
Cor1 CLK ALm 00	アンバー	点滅	CLOCKボード	クロック (下限値) 異常警告	
Cor1 CLK ALm 02	アンバー	点灯	CLOCKボード	致命的なクロック (下限値) 異常	
Cor1 CLK ALm 07	アンバー	点滅	CLOCKボード	クロック (上限値) 異常警告	
Cor1 CLK ALm 09	アンバー	点灯	CLOCKボード	致命的なクロック (上限値) 異常	
Cor1 FAN ALm 01	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	冷却ファン1異常警告	
Cor1 FAN ALm 02	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	冷却ファン2異常警告	

内部のファンに埃やチリが付着していないかどうか確認してください。また、内部ファンのケーブルが確実に接続されていることを確認してください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください



表示	STATUSランプ		対象モジュール	意味	対処方法
	色	状態			
=C =					
Cor1 FAN Alm 03	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	冷却ファン3異常警告	内部のファンに埃やチリが付着していないかどうか確認してください。また、内部ファンのケーブルが確実に接続されていることを確認してください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください
Cor1 FAN Alm 04	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	冷却ファン4異常警告	
Cor1 FAN Alm 05	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	冷却ファン5異常警告	
Cor1 offline	緑	点滅	PCIモジュール#2	PCIモジュールが論理的に切り離されている	切り離されているモジュールをドバイザーリテイクで起動してください。または、モジュールを一度抜いて、再び実装し直してください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください
Cor1 removed	緑	点滅	PCIモジュール#2	PCIモジュールが外れている	モジュールを一度抜いて、再び実装し直してください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください
Cor1 Temp Alm 00	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	温度 (下限値) 異常警告	内部のファンに埃やチリが付着していないかどうか確認してください。また、内部ファンのケーブルが確実に接続されていることを確認してください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください
Cor1 Temp Alm 02	アンバー	点灯	PCIモジュール#2	致命的な温度 (下限値) 異常	
Cor1 Temp Alm 07	アンバー	点滅	PCIモジュール#2	温度 (上限値) 異常警告	
Cor1 Temp Alm 09	アンバー	点灯	PCIモジュール#2	致命的な温度 (上限値) 異常	
CPU IERR 00	緑	点滅	CPUモジュール#1	CPU#1内部エラー	保守サービス会社に連絡してください
CPU IERR 01	緑	点滅	CPUモジュール#1	CPU#2内部エラー	
CPU IERR 20	緑	点滅	CPUモジュール#2	CPU#1内部エラー	
CPU IERR 21	緑	点滅	CPUモジュール#2	CPU#2内部エラー	
CPU T-Trip 00	緑	点滅	CPUモジュール#1	CPU#1熱変化 (上限値) エラー	
CPU T-Trip 01	緑	点滅	CPUモジュール#1	CPU#2熱変化 (上限値) エラー	
CPU T-Trip 20	緑	点滅	CPUモジュール#2	CPU#1熱変化 (上限値) エラー	
CPU T-Trip 21	緑	点滅	CPUモジュール#2	CPU#2熱変化 (上限値) エラー	
CPU0 +12ss Alm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	+12V電圧 (下限値) 異常警告	

表示	STATUSランプ		対象モジュール	意味	対処方法
	色	状態			
= C =					
CPU0 +12ss ALm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な+12V電圧 (下限値) 異常	保守サービス会社に連絡してください
CPU0 +12ss ALm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	+12V (上限値) 異常警告	
CPU0 +12ss ALm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な+12V (上限値) 異常	
CPU0 +12vALm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	+12V電圧 (下限値) 異常警告	
CPU0 +12vALm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な+12V電圧 (下限値) 異常	
CPU0 +12vALm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	+12V (上限値) 異常警告	
CPU0 +12vALm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な+12V (上限値) 異常	
CPU0 +1.5vALm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	1.5V電圧 (下限値) 異常警告	
CPU0 +1.5vALm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な1.5V電圧 (下限値) 異常	
CPU0 +1.5vALm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	1.5V (上限値) 異常警告	
CPU0 +1.5vALm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な1.5V (上限値) 異常	
CPU0 +2.5vALm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	2.5V電圧 (下限値) 異常警告	
CPU0 +2.5vALm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な2.5V電圧 (下限値) 異常	
CPU0 +2.5vALm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	2.5V (上限値) 異常警告	
CPU0 +2.5vALm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な2.5V (上限値) 異常	
CPU0 +2.5VcALm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	2.5V電圧 (下限値) 異常警告	
CPU0 +2.5VcALm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な2.5V電圧 (下限値) 異常	
CPU0 +2.5VcALm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	2.5V (上限値) 異常警告	

表示	STATUSランプ		対象モジュール	意味	対処方法
	色	状態			
= C =					
CPU0 + 2.5VcAlm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な2.5V (上限値) 異常	保守サービズ会社に連絡してください
CPU0 + 3.3vAlm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	3.3V電圧 (下限値) 異常警告	
CPU0 + 3.3vAlm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な3.3V電圧 (下限値) 異常	
CPU0 + 3.3vAlm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	3.3V (上限値) 異常警告	
CPU0 + 3.3vAlm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な3.3V (上限値) 異常	
CPU0 + 3.3vsAlm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	3.3V電圧 (下限値) 異常警告	
CPU0 + 3.3vsAlm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な3.3V電圧 (下限値) 異常	
CPU0 + 3.3vsAlm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	3.3V (上限値) 異常警告	
CPU0 + 3.3vsAlm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な3.3V (上限値) 異常	
CPU0 + 5.0vAlm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	5V電圧 (下限値) 異常警告	
CPU0 + 5.0vAlm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な5V電圧 (下限値) 異常	
CPU0 + 5.0vAlm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	5V (上限値) 異常警告	
CPU0 + 5.0vAlm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な5V (上限値) 異常	
CPU0 + 5.0vsAlm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	5V電圧 (下限値) 異常警告	
CPU0 + 5.0vsAlm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な5V電圧 (下限値) 異常	
CPU0 + 5.0vsAlm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	5V (上限値) 異常警告	
CPU0 + 5.0vsAlm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な5V (上限値) 異常	
CPU0 broken	緑	点滅	CPUモジュール#1	CPUモジュール故障	

表示	STATUSランプ		対象モジュール	意味	対処方法
	色	状態			
= C =					
CPU0 FAN Alm 01	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	冷却ファン1異常警告	内部のファンに埃やチリが付着していないかどうかが確認してください。また、内部ファンのケーブルが確実に接続されていることを確認してください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください
CPU0 FAN Alm 03	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	冷却ファン2異常警告	
CPU0 FAN Alm 04	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	冷却ファン3異常警告	
CPU0 offline	緑	点滅	CPUモジュール#1	CPUモジュールが論理的に切り離されている	切り離されているモジュールをサーバーハブユニットで起動してください。または、モジュールを一度抜いて、再び実装し直してください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください
CPU0 removed	緑	点滅	CPUモジュール#1	CPUモジュールが外れている	モジュールを一度抜いて、再び実装し直してください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください
CPU0 Temp Alm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	温度 (下限値) 異常警告	内部のファンに埃やチリが付着していないかどうかが確認してください。また、内部ファンのケーブルが確実に接続されていることを確認してください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください
CPU0 Temp Alm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な温度 (下限値) 異常	
CPU0 Temp Alm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	温度 (上限値) 異常警告	
CPU0 Temp Alm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な温度 (上限値) 異常	
CPU0 VccpAlm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	CPU動作電圧 (下限値) 異常 (VCCP)警告	保守サービス会社に連絡してください
CPU0 VccpAlm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的なCPU動作電圧 (下限値) 異常(VCCP)	
CPU0 VccpAlm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	CPU動作電圧 (上限値) 異常 (VCCP)警告	
CPU0 VccpAlm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的なCPU動作電圧 (下限値) 異常(VCCP)	
CPU0 Vtt Alm 00	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	1.25V電圧 (下限値) 異常警告	
CPU0 Vtt Alm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な1.25V電圧 (下限値) 異常	
CPU0 Vtt Alm 07	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	1.25V (上限値) 異常警告	
CPU0 Vtt Alm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的な1.25V (上限値) 異常	

表示	STATUSランプ		対象モジュール	意味	対処方法	
	色	状態				
= C =						
CPU00 Temp Alm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	CPU#1の温度 (下限値) 異常警告	内部のファンに埃やチリが付着していないか確認してください。また、内部ファンのケーブルが確実に接続されていることを確認してください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください	
CPU00 Temp Alm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的なCPU#1の温度 (下限値) 異常		
CPU00 Temp Alm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	CPU#1の温度 (上限値) 異常警告		
CPU00 Temp Alm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的なCPU#1の温度 (上限値) 異常		
CPU01 Temp Alm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	CPU#2の温度 (下限値) 異常警告		
CPU01 Temp Alm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的なCPU#2の温度 (下限値) 異常		
CPU01 Temp Alm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#1	CPU#2の温度 (上限値) 異常警告		
CPU01 Temp Alm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#1	致命的なCPU#2の温度 (上限値) 異常		
CPU2 +12ss Alm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	+12V電圧 (下限値) 異常警告		
CPU2 +12ss Alm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な+12V電圧 (下限値) 異常		
CPU2 +12ss Alm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	+12V (上限値) 異常警告		
CPU2 +12ss Alm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な+12V (上限値) 異常		
CPU2 +12vAlm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	+12V電圧 (下限値) 異常警告		
CPU2 +12vAlm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な+12V電圧 (下限値) 異常		
CPU2 +12vAlm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	+12V (上限値) 異常警告		
CPU2 +12vAlm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な+12V (上限値) 異常		
CPU2 +1.5vAlm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	1.5V電圧 (下限値) 異常警告		
CPU2 +1.5vAlm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な1.5V電圧 (下限値) 異常		
保守サービス会社に連絡してください						

表示	STATUSランプ		対象モジュール	意味	対処方法
	色	状態			
= C =					
CPU2 +1.5vAlm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	1.5V (上限値) 異常警告	保守サービス会社に連絡してください
CPU2 +1.5vAlm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な1.5V (上限値) 異常	
CPU2 +2.5vAlm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	2.5V電圧 (下限値) 異常警告	
CPU2 +2.5vAlm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な2.5V電圧 (下限値) 異常	
CPU2 +2.5vAlm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	2.5V (上限値) 異常警告	
CPU2 +2.5vAlm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な2.5V (上限値) 異常	
CPU2 +2.5VcAlm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	2.5V電圧 (下限値) 異常警告	
CPU2 +2.5VcAlm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な2.5V電圧 (下限値) 異常	
CPU2 +2.5VcAlm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	2.5V (上限値) 異常警告	
CPU2 +2.5VcAlm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な2.5V (上限値) 異常	
CPU2 +3.3vAlm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	3.3V電圧 (下限値) 異常警告	
CPU2 +3.3vAlm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な3.3V電圧 (下限値) 異常	
CPU2 +3.3vAlm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	3.3V (上限値) 異常警告	
CPU2 +3.3vAlm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な3.3V (上限値) 異常	
CPU2 +3.3vsAlm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	3.3V電圧 (下限値) 異常警告	
CPU2 +3.3vsAlm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な3.3V電圧 (下限値) 異常	
CPU2 +3.3vsAlm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	3.3V (上限値) 異常警告	
CPU2 +3.3vsAlm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な3.3V (上限値) 異常	

表示	STATUSランプ		対象モジュール	意味	対処方法
	色	状態			
=C =					
CPU2 +5.0vAlm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	5V電圧 (下限値) 異常警告	保守サービス会社に連絡してください
CPU2 +5.0vAlm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な5V電圧 (下限値) 異常	
CPU2 +5.0vAlm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	5V (上限値) 異常警告	
CPU2 +5.0vAlm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な5V (上限値) 異常	
CPU2 +5.0vsAlm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	5V電圧 (下限値) 異常警告	
CPU2 +5.0vsAlm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な5V電圧 (下限値) 異常	
CPU2 +5.0vsAlm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	5V (上限値) 異常警告	
CPU2 +5.0vsAlm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な5V (上限値) 異常	
CPU2 broken	緑	点滅	CPUモジュール#2	CPUモジュール故障	
CPU2 FAN Alm 01	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	冷却ファン1異常警告	内部のファンに埃やチリが付着していないかどうか確認してください。また、内部ファンのケーブルが確実に接続されていることを確認してください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください
CPU2 FAN Alm 03	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	冷却ファン2異常警告	
CPU2 FAN Alm 04	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	冷却ファン3異常警告	
CPU2 offline	緑	点滅	CPUモジュール#2	CPUモジュールが論理的に切り離されている	
CPU2 removed	緑	点滅	CPUモジュール#2	CPUモジュールが外れている	モジュールを一度抜いて、再び実装し直してください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください
CPU2 Temp Alm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	温度 (下限値) 異常警告	
CPU2 Temp Alm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な温度 (下限値) 異常	
CPU2 Temp Alm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	温度 (上限値) 異常警告	
CPU2 Temp Alm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な温度 (上限値) 異常	

表示	STATUSランプ		対象モジュール	意味	対処方法
	色	状態			
= C =					
CPU2 VccpAlm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	CPU動作電圧 (下限値) 異常(VCCP)警告	保守サービス会社に連絡してください
CPU2 VccpAlm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的なCPU動作電圧 (下限値) 異常(VCCP)	
CPU2 VccpAlm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	CPU動作電圧 (上限値) 異常(VCCP)警告	
CPU2 VccpAlm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的なCPU動作電圧 (上限値) 異常(VCCP)	
CPU2 VttAlm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	1.25V電圧 (下限値) 異常警告	
CPU2 VttAlm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な1.25V電圧 (下限値) 異常	
CPU2 VttAlm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	1.25V (上限値) 異常警告	
CPU2 VttAlm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的な1.25V (上限値) 異常	
CPU20 TempAlm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	CPU#1の温度 (下限値) 異常警告	
CPU20 TempAlm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的なCPU#1の温度 (下限値) 異常	
CPU20 TempAlm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	CPU#1の温度 (上限値) 異常警告	
CPU20 TempAlm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的なCPU#1の温度 (上限値) 異常	
CPU21 TempAlm 00	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	CPU#2の温度 (下限値) 異常警告	
CPU21 TempAlm 02	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的なCPU#2の温度 (下限値) 異常	
CPU21 TempAlm 07	アンバー	点滅	CPUモジュール#2	CPU#2の温度 (上限値) 異常警告	
CPU21 TempAlm 09	アンバー	点灯	CPUモジュール#2	致命的なCPU#2の温度 (上限値) 異常	

内部のファンに埃やチリが付着していないかが確認してください。また、内部ファンのケーブルが確実に接続されていることを確認してください。それでも表示が変わらない場合は、保守サービス会社に連絡してください



表示	STATUSランプ		対象モジュール	意味	対処方法	
	色	状態				
= D =						
DUMP Request !	消灯		—	DUMPスイッチ要求	保守サービス会社に連絡してください	
= F =						
FRB processing	消灯		—	POST実行中/OS起動中	正常動作しています	
= M =						
Memory U-Err 01	緑	点滅	CPUモジュール#1	DIMM#1の2Bitエラー	DIMM交換が必要です。保守サービス会社に連絡してください	
Memory U-Err 02	緑	点滅	CPUモジュール#1	DIMM#2の2Bitエラー		
Memory U-Err 03	緑	点滅	CPUモジュール#1	DIMM#3の2Bitエラー		
Memory U-Err 04	緑	点滅	CPUモジュール#1	DIMM#4の2Bitエラー		
Memory U-Err 05	緑	点滅	CPUモジュール#1	DIMM#5の2Bitエラー		
Memory U-Err 06	緑	点滅	CPUモジュール#1	DIMM#6の2Bitエラー		
Memory U-Err 21	緑	点滅	CPUモジュール#2	DIMM#1の2Bitエラー		
Memory U-Err 22	緑	点滅	CPUモジュール#2	DIMM#2の2Bitエラー		
Memory U-Err 23	緑	点滅	CPUモジュール#2	DIMM#3の2Bitエラー		
Memory U-Err 24	緑	点滅	CPUモジュール#2	DIMM#4の2Bitエラー		
Memory U-Err 25	緑	点滅	CPUモジュール#2	DIMM#5の2Bitエラー		
Memory U-Err 26	緑	点滅	CPUモジュール#2	DIMM#6の2Bitエラー		
= O =						
OS shutdown Alm	消灯		—	ウォッチドックタイマのタイムアウトによるシャットダウン(致命的)		保守サービス会社に連絡してください
= P =						
Power Off	消灯		—	DC OFFの状態		—

表示	STATUSランプ		対象モジュール	意味	対処方法
	色	状態			
= S =					
SSR processing	消灯		—	リカバリーブート中	DUMP採取中です
= W =					
WDT timeout	消灯		—	ウォッチドックタイムのタイムアウト発生 (致命的)	保守サービス会社に連絡してください

# POST中のエラーメッセージ

Express5800/ftサーバの電源をONにすると自動的に実行される自己診断機能「POST」中に何らかの異常を検出すると、ディスプレイ装置の画面にエラーメッセージが表示されます(場合によってはその対処方法も表示されます)。次の表に、画面に表示されるメッセージとその意味、対処方法を示します。

```
Phoenix BIOS 4.0 Release 6.0.XXXX
:
CPU=Pentium III Processor XXX MHz
0640K System RAM Passed
0127M Extended RAM Passed
WARNING
0212: Keybord Controller Failed.
:
Press <F1> to resume, <F2> to setup
```

キーボードコントローラのエラーを示すメッセージ



以下に記載されているPOSTのエラーメッセージ一覧はExpress5800/ftサーバ単体のものです。マザーボードに接続されているオプションのSCSIコントローラボードなどに搭載されているBIOSのエラーメッセージとその対処方法についてはオプションに添付の説明書を参照してください(Express5800/ftサーバのマザーボードにSCSIコントローラが搭載されている場合はこれらのメッセージも含まれています)。

ディスプレイ上のエラーメッセージ	意味	原因	対処方法
0200 Failure Fixed Disk	ハードディスクドライブエラー。	(a) セットアップメニューの設定ミスです。 (b) ハードディスクドライブが故障しています。 (c) CPUモジュールボードが故障しています。 (d) PCIモジュールボードが故障しています。	(a) セットアップメニューの設定を調べてください。 (b) ハードディスクドライブを交換してください。 (c) CPUモジュールボードを交換してください。 (d) PCIモジュールボードを交換してください。
0210 Stuck Key	キーボード接続エラー。	キーボードの接続不良です。	(a) キーボードを接続し直してください。 (b) キーボードを交換してください。 (c) PCIモジュールボードを交換してください。
0211 Keyboard error	キーボードエラー。	キーボードが故障しています。	(a) キーボードの接続状態を確認してください。 (b) サーバを再起動させてください。
0212 Keyboard Controller Failed	キーボードコントローラエラー。	キーボードコントローラが故障しています。	(c) PCIモジュールボードを交換してください。
0213 Keyboard locked - Unlock key switch	キーボードがロックされている。	キーボードがロックされています。	キースwitchのロックを解除してください。
0220 Monitor type does not match CMOS - Run SETUP	モニタの種類がCMOSと合っていない。	モニタ種類の設定ミスです。	(a) セットアップメニューからGet Default Valueを選んでください。 (b) CMOSをクリアしてください。

ディスプレイ上のエラーメッセージ	意味	原因	対処方法
0230 System RAM Failed at offset	システムRAMのエラー。	DIMMが故障しています。	(a) DIMMを交換してください。 (b) CPUモジュールボードを交換してください。
0231 Shadow RAM Failed at offset	Shadow RAMのエラー。	DIMMが故障しています。	(a) DIMMを交換してください。 (b) CPUモジュールボードを交換してください。
0232 Extend RAM Failed at address line	拡張RAMのエラー。	DIMMが故障しています。	(a) DIMMを交換してください。 (b) CPUモジュールボードを交換してください。
0233 Memory type mixing detected	メモリの種類が混在している。	違う種類のDIMMがインストールされています。	弊社の推奨するDIMMに交換してください。
0234 Single - bit ECC error	1ビットECCエラー。	DIMMが故障しています。	(a) DIMMを交換してください。 (b) CPUモジュールボードを交換してください。
0235 Multiple - bit ECC error	2ビットECCエラー。	DIMMが故障しています。	(a) DIMMを交換してください。 (b) CPUモジュールボードを交換してください。
0250 System battery is dead - Replace and run SETUP	システムバッテリー寿命。	NvRAMのバッテリーが寿命です。	PCIモジュールボードを交換してください。
0251 System CMOS checksum bad- Default configuration used	CMOSのチェックサムエラー。	NvRAMが故障しています。	(a) セットアップメニューを再設定してください。 (b) PCIモジュールボードを交換してください。
0252 Password checksum bad - Password cleared	パスワードのチェックサムエラー。	NvRAMが故障しています。	(a) セットアップメニューでパスワードを再設定してください。 (b) PCIモジュールボードを交換してください。
0260 System timer error	システムタイマのエラー。	PCIモジュールボードが故障しています。	PCIモジュールボードを交換してください。
0270 Real time clock error	RTCエラー。	RTCが故障しています。	PCIモジュールボードを交換してください。
0271 Check date and time setting	日付と時刻の設定が不正。	RTCの日付と時刻設定が故障しています。	(a) セットアップメニューで日付と時刻を設定してください。 (b) PCIモジュールボードを交換してください。
0280 Previous boot incomplete - Default configuration used	前回の起動が正常に終了していない。	セットアップメニューの設定ミスです。	セットアップメニューの設定を確認してください。
02B0 Diskette drive A error	フロッピーディスクドライブAのエラー。	フロッピーディスクドライブAのエラーです。	フロッピーディスクドライブAを交換してください。
02B2 Incorrect Drive A type - run SETUP	ドライブAの種類が間違っている。	セットアップメニューの設定ミスです。	セットアップメニューを設定してください。
02D0 System cache error - Cache disabled	CPUキャッシュのエラー。	(a) CPUが故障しています。 (b) CPUモジュールボードが故障しています。	(a) CPUを交換してください。 (b) CPUモジュールボードを交換してください。
0B1B PCI System Error on Bus/Device/Function	PCIバスのシステムエラー。	PCIデバイスが故障しています。	(a) PCIデバイスボードを交換してください。 (b) PCIデバイスボードをもう一度取り付け直してください。
0B1C PCI Parity Error on Bus/Device/Function	PCIバスのパリティエラー。	PCIデバイスが故障しています。	(c) PCIデバイスボードの設定をやり直してください。
0B22 CPUs are installed out of order	CPUの故障。	CPUが故障しています。	CPUを交換してください。

ディスプレイ上のエラーメッセージ	意味	原因	対処方法
0B28 Unsupported Processor detected on Processor 1	未サポートのプロセッサ (CPU) を取り付けられている	未サポートのプロセッサ (CPU) がProcessor 1に取り付けられています。	本装置がサポートしているCPUに交換してください。
0B29 Unsupported Processor detected on Processor 2	未サポートのプロセッサ (CPU) を取り付けられている	未サポートのプロセッサ (CPU) がProcessor 2に取り付けられています。	本装置がサポートしているCPUに交換してください。
0B30 CPU FAN #1 Alarm occurred	ファンのエラー。	(a) ファンの中にゴミがたまっています。	(a) ファンを交換してください。
0B31 CPU FAN #2 Alarm occurred		(b) ファンが故障しています。 (c) CPUモジュールボードが故障しています。	(b) CPUモジュールボードを交換してください。 (c) ファンのケーブルを正しく接続してください。
0B32 CPU FAN #3 Alarm occurred	ファンのエラー。	(a) ファンの中にゴミがたまっています。 (b) ファンが故障しています。 (c) CPUモジュールボードが故障しています。	(a) ファンを交換してください。 (b) CPUモジュールボードを交換してください。 (c) ファンのケーブルを正しく接続してください。
0B40 Invalid System Configuration Data	機器構成システムの故障。	CPU/PCIモジュールボードが故障しています。	CPU/PCIモジュールボードを交換してください。
0B41 System Configuration Data Read error	システム構成データのリードエラー。	CPU/PCIモジュールボードが故障しています。	CPU/PCIモジュールボードを交換してください。
0B42 Resource Conflict	PCIリソース構成の不正。	SETUPの設定ミスです。	SETUPで機器構成を設定し直してください。
0B43 Warning: IRQ not configured	PCI INT構成の不正。	SETUPの設定ミスです。	SETUPで設定し直してください。
0B44 Expansion Rom not initialized	拡張ROM初期化中のエラー。	SETUPの設定ミスです。	SETUPで必要ないオプションのPCIカードの拡張ROMの展開を禁止してください。
0B45 System Configuration Data Write error	システム構成データのライトエラー。	CPU/PCIモジュールボードが故障しています。	CPU/PCIモジュールボードを交換してください。
0B47 Missing date and time synchronization	日時の同期処理に失敗し、不正となっている。	BMC間通信異常により日時の設定が壊れています。	(a) システムを再起動してください。 (b) SETUPで日時を設定し直してください。 それでも直らない場合はPCIモジュールボードを交換してください。
0B49 BMC issued Reset Command, but failed System Reset	BMCによるシステムリセットが機能しない。	BMCのリセットコマンドがきかず、システムをリセットできません。	PCIモジュールボードを交換してください。

ディスプレイ上のエラーメッセージ	意味	原因	対処方法
OB6E DIMMs are installed out of order	DIMMの故障。	DIMMが故障しています。	DIMMを交換してください。
OB70 The error occurred during temperature sensor reading	温度情報取得中にエラーが発生。	(a) SMBusが故障しています。 (b) 温度センサが故障しています。	CPU/PCIモジュールボードがバックパネルボードを交換してください。
OB71 System temperature out of Range	システム内温度が異常。	(a) システムを運用する環境温度が規定温度範囲外です。 (b) ファンが故障しています。 (c) CPU/PCIモジュールボードが故障しています。	(a) セットアップメニューの設定を確認してください。 (b) ファンを掃除してください。 (c) ファンを交換してください。 (d) CPU/PCIモジュールボードを交換してください。
OB80 BMC Memory Test Failed	BMCデバイスの故障。	BMCが故障しています。	PCIモジュールボードを交換してください。
OB81 BMC Firmware Code Area CRC check failed			
OB82 BMC core Hardware failure			
OB83 BMC IBF or OBF check failed			
OB90 BMC Platform Information Area corrupted	BMCデバイスの故障。	BMCが故障しています。	PCIモジュールボードを交換してください。
OB91 BMC update firmware corrupted	BMCアクセスでの故障。		
OB92 Internal Use Area of BMC FRU corrupted	SROMのシャージ情報のエラー。	(a) SROMが故障しています。 (b) BMCが故障しています。	(a) バックパネルボードを交換してください。 (b) PCIモジュールボードを交換してください。
OB93 BMC SDR Repository empty	BMCデバイスの故障。	BMCが故障しています。	PCIモジュールボードを交換してください。
OB94 IPMB signal lines do not respond	SMCの故障。		
OB95 BMC FRU device failure	SROMのシャージ情報の故障。		
OB96 BMC SDR Repository failure	BMCデバイスの故障。		
OB97 BMC SEL device failure			
OB98 BMC SEL Overflow	SELのオーバーフロー。	SEL (システムイベントログ) がオーバーフローを起こしていません。	必要のないSELを削除してください。
OBB0 SMBIOS - SROM data read error	SROM読み取り中のエラー。	(a) SROMが故障しています。 (b) バックパネルボードが故障しています。	バックパネルボードを交換してください。
OBB1 SMBIOS - SROM data checksum bad	SROMのチェックサムエラー。		
OBD0 1st SMBus device address not acknowledged	PCIモジュールボード#1上のSMBusの故障。	各ボードが故障しています。	(a) ケーブルの接続を確認してください。 (b) 各ボードを交換してください。
OBD1 1st SMBus device Error detected			
OBD2 1st SMBus timeout			

ディスプレイ上のエラーメッセージ		意味	原因	対処方法
0BD3	2nd SMBus device address not acknowledged	CPUモジュールボード # 1上のSMBusの故障。	各ボードが故障しています。	(a) ケーブルの接続を確認してください。 (b) 各ボードを交換してください。
0BD4	2nd SMBus device Error detected			
0BD5	2nd SMBus timeout			
0BD6	3rd SMBus device address not acknowledged	本装置では3rd SMBusは未使用のため、表示されません。		
0BD7	3rd SMBus device Error detected			
0BD8	3rd SMBus timeout			
0BD9	4th SMBus device address not acknowledged	CPUモジュールボード # 2上のSMBusの故障。		
0BDA	4th SMBus device Error detected			
0BDB	4th SMBus timeout			
0BDC	5th SMBus device address not acknowledged	本装置では5th SMBusは未使用のため、表示されません。		
0BDD	5th SMBus device Error detected			
0BDE	5th SMBus timeout			
0BDF	6th SMBus device address not acknowledged	本装置では6th SMBusは未使用のため、表示されません。		
0BE0	6th SMBus device Error detected			
0BE1	6th SMBus timeout			
0BE2	7th SMBus device address not acknowledged	バックパネルボード上のSMBusの故障。		
0BE3	7th SMBus device Error detected			
0BE4	7th SMBus timeout			
0BE5	8th SMBus device address not acknowledged	PCIモジュールボード # 2上のSMBusの故障。		
0BE6	8th SMBus device Error detected			
0BE7	8th SMBus timeout			
0BF0	Vendor ID cannot be retrieved from BP IDPROM	バックパネルボードのSRROMからベンダIDの取り出しに失敗した。	バックパネルボードの故障です。	バックパネルボードを交換してください。
0BF1	System Structure cannot be retrieved from BP IDPROM	バックパネルボードのSRROMからシステム構成の取り出しに失敗した。	バックパネルボードの故障です。	バックパネルボードを交換してください。
0C00	Rompilot reports error number xx	Rompilot初期化中のエラー。	(a) SETUPの設定ミスです。 (b) CPU/PCIモジュールボードが故障しています。	(a) Rompilotを再構成してください。 (b) CPU/PCIモジュールボードを交換してください。
8600	No working DQS value found	DQS未検出。	(a) DIMMが故障しています。 (b) 未サポートのDIMMです。	(a) DIMMを交換してください。 (b) 弊社の推奨するDIMMに交換してください。

ディスプレイ上のエラーメッセージ		意味	原因	対処方法
8610	MAC Address update failed - CoreI/O#0 10/100Mbit Ethernet Controller	PCIモジュールボード # 1のオンボード上の10/100Mbit Ethernet ControllerへのMAC Address設定処理に失敗。	MAC Address設定時、FRB2 Timeoutが発生し、書き換えに失敗しました。	(a) バックパネルボードを交換してください。 (b) PCIモジュールボード#1を交換してください。
8611	MAC Address update failed - CoreI/O#0 Gbit Ethernet Controller	PCIモジュールボード # 1のオンボード上のGbit Ethernet ControllerへのMAC Address設定処理に失敗。	MAC Address設定時、FRB2 Timeoutが発生し、書き換えに失敗しました。	(a) バックパネルボードを交換してください。 (b) PCIモジュールボード#1を交換してください。
8612	MAC Address update failed - CoreI/O#1 10/100Mbit Ethernet Controller	PCIモジュールボード # 2のオンボード上の10/100Mbit Ethernet ControllerへのMAC Address設定処理に失敗。	MAC Address設定時、FRB2 Timeoutが発生し、書き換えに失敗しました。	(a) バックパネルボードを交換してください。 (b) PCIモジュールボード#2を交換してください。
8613	MAC Address update failed - CoreI/O#1 Gbit Ethernet Controller	PCIモジュールボード # 2のオンボード上のGbit Ethernet ControllerへのMAC Address設定処理に失敗。	MAC Address設定時、FRB2 Timeoutが発生し、書き換えに失敗しました。	(a) バックパネルボードを交換してください。 (b) PCIモジュールボード#2を交換してください。



# ビープ音によるエラー通知

POST中のエラーを検出しても、ディスプレイ装置の画面にエラーメッセージを表示できない場合があります。この場合は、一連のビープ音でエラーが発生したことを通知します。エラーはビープ音のいくつかの音の組み合わせでその内容を通知します。

たとえば、ビープ音が1回、連続して3回、1回、1回の組み合わせで鳴った(ビープコード：1-3-1-1)ときはDRAMリフレッシュテストエラーが起きたことを示します。

次にビープコードとその意味、対処方法を示します。

ビープコード	意味	対処方法
1-2-2-3	ROMチェックサムエラー	保守サービス会社に連絡して、CPUモジュールボードを交換してください。
1-1-2-4	ROMEXECコードエラー	DIMMの取り付け状態を確認してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡して、DIMM、CPUモジュールボードを交換してください。
1-3-1-1	DRAMリフレッシュテストエラー	
1-3-1-3	キーボードコントローラエラー	キーボードを接続し直してください。それでも、直らない場合は保守サービス会社に連絡して、CPUモジュールボードを交換してください。
1-3-3-1	メモリを検出できない。あるいは、DIMMのタイプが異なる	DIMMの取り付け状態を確認してください。それでも、直らない場合は保守サービス会社に連絡して、DIMM、CPUモジュールボードを交換してください。
1-3-3-2	POST Memory Managerの初期設定エラー	DIMMの取り付け状態を確認してください。それでも、直らない場合は保守サービス会社に連絡して、DIMM、CPUモジュールボードを交換してください。
1-3-4-1	RAMアドレスエラー	
1-3-4-3	RAM LOWバイトデータエラー	
1-4-1-1	RAM HIGHバイトデータエラー	
2-2-3-1	不正割り込みテストエラー	保守サービス会社に連絡してください。
2-1-2-3	COPYRIGHTチェックエラー	
1-2	VIDEO BIOSの初期化エラー	ディスプレイ装置になにも表示されない場合は、ディスプレイのコネクタの取り付け状態を確認してください。それでも、直らない場合は保守サービス会社に連絡して、CPUモジュールボードを交換してください。
	オプションROM初期化エラー	増設したPCIボードのオプションROMの展開が表示されない場合は、PCIボードの取り付け状態を確認してください。それでも直らない場合は、保守サービス会社に連絡して、CPUモジュールボード、PCIモジュールボード、増設したPCIボードを交換してください。
	オプションROM展開エラー	

# Windows 2000のエラーメッセージ

Windows 2000の起動後に致命的なエラー(STOPエラーやシステムエラー)が起きるとディスプレイ装置の画面がブルーに変わり、エラーに関する詳細なメッセージが表示されます。

画面のバックグラウンドの色は「ブルー」

**STOP : C000021A (FATAL SYSTEM ERROR)**

**The Windows logon process.. System process terminated.**

**Unexpectedly with a status of 0x00000001 (0x00000000 0x00000000).**

**The system has been shutdown.**

**crashdump : initializing miniport driver**

**crashdump : dumping physical memory to disk**

画面に表示されたメッセージを記録して保守サービス会社に連絡してください。また、このエラーが起きるとExpress5800/ftサーバは自動的にメモリダンプを実行し任意のディレクトリにメモリダンプのデータを保存します(「メモリダンプ(デバッグ情報)の設定(3-77ページ)」参照)。のちほど保守サービス会社の保守員からこのデータを提供していただくよう依頼される場合があります。DATなどのメディアにファイルをコピーして保守員に渡せるよう準備しておいてください。

**重要** STOPエラーやシステムエラーが発生しシステムを再起動したとき、仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示されることがありますが、そのまま起動してください。

**チェック** このファイルをメディアにコピーする前に、イベントビューアを起動して、システムイベントログでSave Dumpのイベントログが記録され、メモリダンプが保存されたことを確認してください。

使用中に「システムの仮想メモリが不足しています。システムのメモリを増やすかアプリケーションを終了して下さい。」と表示される場合があります。このメッセージが表示された場合は、以下のことを行ってください。

1. 物理メモリを追加する。
2. ページファイルの設定を変更する(物理メモリ容量×1.5以上に変更する)。

このほかにもディスクやネットワーク、プリンタなど内蔵デバイスや周辺機器にエラーが起きた場合にも警告メッセージが表示されます。メッセージを記録して保守サービス会社に連絡してください。

# サーバ管理アプリケーションからのエラーメッセージ

故障かな？と思ったら

ESMPRO/ServerAgentやESMPRO/ServerManager、GAMSeverなどExpress5800/ftサーバ専用の管理ツールをExpress5800/ftサーバや管理PCへインストールしておく、何らかの障害が起きたときに管理PCやExpress5800/ftサーバに接続しているディスプレイ装置から障害の内容を知ることができます。

各種アプリケーションのインストールや運用方法については6章、またはオンラインドキュメントを参照してください。

ESMPROを使ったシステム構築や各種設定の詳細についてはオンラインヘルプや別売の「ESMPROシステム構築ガイド」で詳しく説明されています。

発生時刻	発生場所	発生原因	発生時刻
1997/01/27 13:11	不明なサーバ	CPU	10.8.66.106
1997/01/27 18:31	ROLEX	CPU	198.223.3100
1997/01/27 18:32	coom1	CPU	198.223.3100
1997/01/27 18:30	ROLEX	CPU	198.223.3100
1997/01/27 17:54	coom1	CPU	198.223.3100
1997/01/27 17:25	不明なサーバ	CPU	198.223.3100
1997/01/27 14:08	不明なサーバ	CPU	10.8.66.106
1997/01/16 19:29	不明なサーバ	CPU	10.8.66.106
1997/01/16 19:29	不明なサーバ	CPU	10.8.66.248
1997/01/16 19:27	不明なサーバ	CPU	10.8.66.248
1997/01/16 15:34	不明なサーバ	CPU	10.8.66.106
1997/01/16 15:34	不明なサーバ	CPU	10.8.66.248
1997/01/16 15:30	不明なサーバ	CPU	10.8.66.248
1997/01/16 15:26	不明なサーバ	CPU	10.8.66.248

# トラブルシューティング

Express5800/ftサーバが思うように動作しない場合は修理に出す前に次のチェックリストの内容に従ってExpress5800/ftサーバをチェックしてください。リストにある症状に当てはまる項目があるときは、その後の確認、処理に従ってください。

それでも正常に動作しない場合は、ディスプレイ装置の画面に表示されたメッセージを記録してから、保守サービス会社に連絡してください。

## Express5800/ftサーバについて

### ? 電源がONにならない

- 電源がExpress5800/ftサーバに正しく供給されていますか？
  - 電源コードがExpress5800/ftサーバの電源規格に合ったコンセント(またはUPS)に接続されていることを確認してください。
  - 本体に添付の2本の電源コードが正しく接続されていることを確認してください。
  - Express5800/ftサーバに添付の電源コードを使用してください。また、電源コードの被覆が破れていたり、プラグ部分が折れていたりしていないことを確認してください。
  - 接続したコンセントのブレーカがONになっていることを確認してください。
  - UPSに接続している場合は、UPSの電源がONになっていること、およびUPSから電力が出力されていることを確認してください。詳しくはUPSに添付の説明書を参照してください。  
また、Express5800/ftサーバのBIOSセットアップユーティリティでUPSとの電源連動機能の設定ができます。  
<確認するメニュー: 「System Hardware」→ 「AC-LINK」→ 「Power On」>
- POWERスイッチを押しましたか？
  - Express5800/ftサーバ前面に2つのPOWERスイッチがありますが、POWERスイッチのランプが点灯している方のPOWERスイッチを押して電源をONにしてください。
- CPU/PCIモジュールは正しく取り付けられていますか？
  - Express5800/ftサーバにCPU/PCIモジュールが正しく取り付けられていることを確認してください。CPU/PCIモジュールはハンドルにあるネジで確実に固定してください。

### ? OS Boot中にブルー画面になる

- BIOS設定の[Boot Monitoring]で設定した値までそのままお待ちください。自動的にBoot pairを切り替えて再起動し、OSが起動します。
- もう一方のPCIモジュールのハードディスクドライブから起動してください。

## ? 電源がOFFにならない

- POWERスイッチの機能を無効にしていますか?
  - いったんExpress5800/ftサーバを再起動して、BIOSセットアップユーティリティを起動してください。
  - <確認するメニュー:「Security」→「Power Switch Mask」→「Unmasked」>

## ? POSTが終わらない

- メモリが正しく搭載されていますか?
  - 最低1組(2枚)のDIMMが搭載されていないと動作しません。
- 大容量のメモリを搭載していますか?
  - 搭載しているメモリサイズによってはメモリチェックで時間がかかる場合があります。しばらくお待ちください。
- Express5800/ftサーバの起動直後にキーボードやマウスを操作していませんか?
  - 起動直後にキーボードやマウスを操作すると、POSTは誤ってキーボードコントローラの異常を検出し、処理を停止してしまうことがあります。そのときはもう一度、起動し直してください。また、再起動直後は、BIOSの起動メッセージなどが表示されるまでキーボードやマウスを使って操作しないよう注意してください。
- Express5800/ftサーバで使用できるメモリ・PCIカードを搭載していますか?
  - 弊社が指定する機器以外は動作の保証はできません。

## ? デバイス(内蔵・外付け)にアクセスできない

- ケーブルは正しく接続されていますか?
  - インタフェースケーブルや電源ケーブル(コード)が確実に接続されていることを確認してください。また接続順序が正しいかどうか確認してください。
- Express5800/ftサーバで使用できる機器ですか?
  - 弊社が指定する機器以外は動作の保証はできません。
- 電源ONの順番を間違っていないか?
  - 外付けデバイスを接続している場合は、外付けデバイス、Express5800/ftサーバの順に電源をONにします。
- ドライバをインストールしていますか?
  - 接続したオプションのデバイスによっては専用のデバイスドライバが必要な場合があります。デバイスに添付の説明書を参照してドライバをインストールしてください。
  - シリアルポートに接続しているデバイスについては、I/Oポートアドレスや動作モードの設定が必要なものもあります。デバイスに添付の説明書を参照して正しく設定してください。
  - <確認するメニュー:「Advanced」→「Peripheral Configuration」>
- SCSIコントローラ(オプション含む)の設定を間違えていませんか?
  - オプションのSCSIコントローラボードを搭載し、SCSI機器を接続している場合は、SCSIコントローラボードが持つBIOSセットアップユーティリティで正しく設定してください。詳しくはSCSIコントローラボードに添付の説明書を参照してください。

- SCSI機器の設定を間違えていませんか？
  - 外付けSCSI機器を接続している場合は、SCSI IDや終端抵抗などの設定が必要です。詳しくはSCSI機器に添付の説明書を参照してください。

### CPUが二重化しない

- メモリの構成はあっているか確認してください。
- 弊社以外(サードパーティ)のCPUやメモリ(DIMM)を実装していないか確認してください。

### ディスクの二重化設定ができない

- 手順通りにミラーリング(故障交換後の再構築含む)を実施しないと、ミラーが(再)構築できない場合があります。手順を確認してください。

### キーボードやマウスが正しく機能しない

- ケーブルは正しく接続されていますか？
  - Express5800/ftサーバ背面にあるコネクタに正しく接続されていることを確認してください。
- Express5800/ftサーバで使用できるキーボード・マウスですか？
  - 弊社が指定する機器以外は動作の保障できません。
- BIOSの設定を間違えていませんか？
  - Express5800/ftサーバのBIOSセットアップユーティリティでキーボードの機能を変更することができます。BIOSセットアップユーティリティで設定を確認してください。  
<確認するメニュー: 「Advanced」→ 「Keyboard Features」>
- ドライバをインストールしていますか？
  - 使用しているOSに添付の説明書を参照してキーボードやマウスのドライバがインストールされていることを確認してください(これらはOSのインストールの際に標準でインストールされます)。また、OSによってはキーボードやマウスを設定を変更できる場合があります。使用しているOSに添付の説明書を参照して正しく設定されているかどうか確認してください。
- PS2-USB変換コネクタを使用していますか？
  - PS2-USB変換コネクタはサポートしていません。装置添付または弊社指定のキーボード・マウスを接続してください。

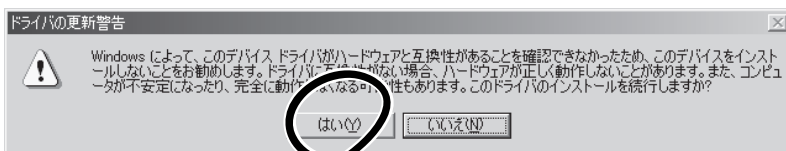
### 画面が止まり、キーボードやマウスが機能しなくなる

- メモリをたくさん搭載した場合、システム起動中やCPUモジュールの二重化中メモリコピーに時間がかかり、このときシステムは止まりますが、故障では有りません。

## ? Windows 2000 のインストール後にデバイス マネージャで日本語 106/109 キーボードが英語 101/102 キーボードと認識される。

→ デバイス マネージャでは英語 101/102 キーボードと認識されていますが、キーボードの入力は日本語 106/109 キーボードの配列で行うことができます。日本語 106/109 キーボードに変更したいときは、以下の手順で変更してください。

1. [スタートメニュー]から[設定]を選択し、[コントロールパネル]を起動する。
2. [管理ツール]内の[コンピュータの管理]を起動し[デバイスマネージャ]をクリックする。
3. [キーボード]をクリックし、以下のプロパティを開く。  
101/102 英語キーボードまたは、Microsoft Natural PS/2 キーボード
4. [ドライバ]タブの[ドライバの更新]をクリックし、[このデバイスの既知のドライバを表示してその一覧から選択する]を選択する。
5. 「このデバイス クラスのハードウェアをすべて表示」を選択し、日本語 PS/2 キーボード(106/109 キー)を選択して[次へ]をクリックする。
6. ウィザードに従ってドライバを更新してコンピュータを再起動する。
7. 以下のメッセージが表示された場合は、[はい]をクリックして操作を続行する。



## ? [新しいハードウェアが見つかりました]とメッセージが表示される

→ システム起動時、またはPCIモジュール交換後、システムに組み込まれる際に、新しいハードウェアを追加していないのに[新しいハードウェアが見つかりました]～SCSI Other Deviceメッセージが表示されることがありますが、本装置における動作の仕様によるものであり、本装置の動作には問題はありません。

## ? フロッピーディスクにアクセス(読み込み、または書き込みが)できない

- フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットしていますか?
  - フロッピーディスクドライブに「カチッ」と音がするまで確実に差し込んでください。
- 書き込み禁止にしていますか?
  - フロッピーディスクのライトプロテクトスイッチのノッチを「書き込み可」にセットしてください。
- フォーマットしていますか?
  - フォーマット済みのフロッピーディスクを使用するか、セットしたディスクをフォーマットしてください。フォーマットの方法については、OSに添付の説明書を参照してください。

### ? CD-ROMにアクセスできない

- CD-ROMドライブのトレイに確実にセットしていますか？  
→ トレーにはCD-ROMを保持するホルダーがあります。ホルダーで確実に保持されていることを確認してください。
- Express5800/ftサーバで使用できるCD-ROMですか？  
→ Macintosh専用のCD-ROMは使用できません。
- POWERスイッチのLED点灯(Primary側)PCIモジュールのCD-ROMドライブですか？  
→ 本装置には2台のCD-ROMが実装されていますが、使用できるのは、POWERスイッチのLED点灯(Primary側)PCIモジュールのCD-ROMドライブです。どちら側のCD-ROMドライブであるか確認してください。

### ? ハードディスクドライブにアクセスできない

- Express5800/ftサーバで使用できるハードディスクドライブですか？  
→ 弊社が指定する機器以外は動作の保証はできません。
- ハードディスクドライブは正しく取り付けられていますか？  
→ ハードディスクドライブのハンドルにあるレバーで確実にロックしてください。不完全な状態では、内部のコネクタに接続されません(9-9ページ参照)。また、正しく接続されている場合、Express5800/ftサーバの電源がONの間、ハードディスクドライブにあるランプが点灯します。

### ? OSを起動できない

- フロッピーディスクをセットしていませんか？  
→ フロッピーディスクを取り出して再起動してください。
- 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットしていませんか？  
→ 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを取り出して再起動してください。
- OSが破損していませんか？  
→ 修復プロセスを使って修復を試してください(8-69ページ)。

### ? Windows 2000を正しくインストールできない

- インストール時の注意事項を確認していますか？  
→ 3-20ページを参照してください。

### ? セットアップの途中でリブートする

- BIOSの設定はありますか？  
→ Boot Monitoringの設定を確認してください。

### ? OSの動作が不安定

- システムのアップデートを行いましたか？  
→ OSをインストールした後にネットワークドライバをインストールすると動作が不安定になることがあります。8-76ページを参照してシステムをアップデートしてください。

### ? 障害発生時、「自動的に再起動する」の設定で設定どおりに動作しない

- 障害発生時に「自動的に再起動する」の設定にかかわらず、自動的に再起動する場合や再起動しない場合があります。再起動しない場合は、手動で再起動してください。



### ? ブルー画面で電源OFFができない

→ ブルー画面で電源をOFFにする時は、強制電源OFF(強制シャットダウン: POWERスイッチを4秒間押し続ける)を行ってください。一度押しでは電源はOFFになりません。

### ? ネットワーク上で認識されない

- ケーブルを接続していますか?
  - Express5800/ftサーバにあるネットワークポートに確実に接続してください。また、使用するケーブルがネットワークインタフェースの規格に準拠したものであることを確認してください。
- プロトコルやサービスのセットアップを済ませていますか?
  - Express5800/ftサーバ専用のネットワークドライバをインストールしてください。また、TCP/IPなどのプロトコルのセットアップや各種サービスが確実に設定されていることを確認してください。
- 転送速度の設定を間違えていませんか?
  - Express5800/ftサーバに標準で装備されている内蔵のLANコントローラは、転送速度が1000Mbps、100Mbps、または10Mbpsのいずれかのネットワークでも使用することができます。この転送速度の切り替えや設定はOS上から行えますが、「Auto Detect」という機能は使用せず、接続しているハブと同じ転送速度で固定に設定してください。また、接続しているハブとデュプレックスモードが同じであることを確認してください。

転送速度を固定にするにはPROSet IIにて設定します。

左側のツリーにて変更するアダプタを選択し、100Baseアダプタの場合は[Advanced]タブをクリックし、[Link Speed & Duplex]にて設定を行います。1000Base-Tアダプタの場合は[Link Config]タブをクリックします。[Auto Negotiation]に[Enabled]を選択し、[Negotiable Speed and Duplexes]で転送速度を設定します(使用する転送速度のみチェックを行う)。

### ? エクスプローラ上でAドライブのアイコンが、リムーバブルディスクのアイコンに変わってしまう

→ 異常ではありません。そのままお使いになっても問題ありません。

### ? CPUモジュールの二重化に失敗する

→ CPUおよびPCIモジュールの同時交換を行う等により、CPUおよびPCIモジュールの二重化制御が同時に実行される場合、システムイベントログに以下のメッセージを記録し、CPUモジュールの二重化に失敗することがあります。その場合は、ftサーバユーティリティでCPUモジュールの起動を実行するか、CPUモジュールを再挿入することで回復させることができます。

```
「ソース      : srabb
ID            : 98
説明         : Diagnostic Test Failure! 0: CPU Host Code Download
              (0xff0b)」
```

## ? PCIモジュールの二重化に失敗する

- PCIモジュールのフェイルオーバー時、システムイベントログに以下のメッセージを記録し、PCIモジュールの二重化に失敗することがあります。その場合は、二重化に失敗したPCIモジュールを再挿入することで回復することができます。

```
「ソース : srabb
ID : 98
説明 : Diagnostic Test Failure! 11: IRQ1 Interrupt (0xd5a1)」
```

- CPU、PCIモジュールの同時交換を行う等により、CPU、PCIが同時に二重化のための同期制御が動作するような場合、システムイベントログに以下のメッセージを記録し、PCIモジュールの二重化に失敗することがあります。その場合は、二重化に失敗したPCIモジュールを再挿入することで回復することができます。

```
「ソース : srabb
ID : 98
説明 : Diagnostic Test Failure! 10: Xena Sanity Check (0xd630)」
```

## ? システム立ち上げ後に、VERITAS Enterprise AdministratorでDisk情報が正しく表示されない。

- PrimaryPCIとFC Disk間のアクセスが不可の場合に、Disk情報が正しく表示されないことがあります。その場合には、「アクション/更新」または「アクション/再走査」を実行してください。  
上記でも正しく表示されない場合には、ディスクとの接続を確認してください。

## ? 「ハードウェアの取り外し」ダイアログボックスに“Stratus Fault Tolerant Virtual 69000 Video”が表示される。

- システムトレイ上の「ハードウェアの取り外し」アイコンをダブルクリックすると2つの“Stratus Fault Tolerant Virtual 69000 Video”が表示されます。  
これらの取り外しを行わないでください。これらを取り外した場合には、接続されているPCIモジュールが強制的に切り離され、システムが正常に動作しなくなる可能性があります。

## ? CPU/PCIモジュールが組み込まれない

- コンポーネントに故障が発生し、再組み込みを行う場合、システムイベントログに以下のメッセージを記録し、再組み込みが停止することがあります。その場合は、コンポーネントのMTBFがしきい値を下回り、修理の必要性があると判断して再組み込みができない状態です。通常、装置交換が必要となりますので保守員に相談してください。  
何らかの理由で現在の装置のまま再組み込みを行う場合は、保守員に相談の上、強制的に再組み込みを行うことは可能です。

```
ソース : srabb
ID : 53
説明 : Device 0 is now BROKEN/REASON_BELOW_MTBF
```

## ？ システム起動時にリポートを繰り返す

- システム起動時にCHKDSKが実施されていませんか？  
→ リポート時にBIOS設定のユーティリティを起動し、下記の設定を変更してください。

### BIOS設定変更

[Advanced]－[Monitoring Configuration]－[Boot Monitoring]を「Disabled」に変更する。

詳細については、5-15ページの「Monitoring Configuration」を参照してください。

※ CHKDSK完了後にシステムを再起動し、上記の設定を「Enabled」に戻して運用してください。

なお、CHKDSKが実施される条件は以下のようになります。

- － 次回システム起動時にCHKDSKを実行するようにスケジュールした場合
  - － 前回の起動からシャットダウンまでの期間でファイルシステムの破損が検出された場合
  - － システム起動時のマウント処理においてファイルシステムの矛盾（破損）が検出された場合
- BIOS設定の[Boot Monitoring Time-out Period]の設定値は妥当ですか？  
→ お客様の環境に合わせて[Boot Monitoring Time-out Period]の値を適宜変更してください。

詳細については、5-15ページの「Monitoring Configuration」を参照してください。

## ？ 起動後、プライマリPCIモジュールのステータスランプ2とDISK ACCESSランプがアンバー色に点灯する

- ハードディスクドライブのミラーが外れていませんか？  
→ [VERITAS Enterprise Administrator]を確認し、ミラーが外れた状態の場合は、ミラーを再構築してください。（「4章 Windowsの操作と設定」を参照）

ディスクの故障要因の他に、以下の操作を行った後、起動時にミラーが外れることがあります。

- PCIモジュールが片系(非二重化)状態でシャットダウン後、起動した。
- BMCステータスランプが点滅時に、Express5800/ftサーバを起動した。

A/C電源をONにした直後や、PCIモジュールを装填した直後にBMC (Baseboard Management Controller)の二重化処理が行われます。

二重化処理の開始前または処理中に、POWERスイッチを押して起動した場合、ディスクのミラー外れが発生することがあります。Express5800/ftサーバの起動は、BMCの二重化処理完了後に行うようにしてください。

二重化処理中かどうかの判断は、装填した側のPCIモジュールのBMCステータスランプから確認することができます。

- 赤色に点灯：二重化処理前
- 赤色に点滅：二重化処理中
- 消灯：二重化処理が完了

BMCステータスランプの位置については、2-7ページを参照願います。

### ディスクのアクセスランプが点灯しない

→ アクセスが過多の時、点滅が頻繁に起こり、消灯しているように見えることがあります。アクセスが減少したとき緑色に点滅している、またはアクセスが止まったとき緑色に点灯していることを確認してください。

### 障害発生時、メモリダンプ(デバッグ情報)が採取できない

- メモリダンプ(デバッグ情報)の格納先に空き容量はありますか？
  - メモリダンプ(デバッグ情報)の格納先には、本装置に搭載しているメモリサイズ+12MB以上(メモリサイズが2GBを超える場合は、2048+12MB以上)の空き容量のあるドライブを指定してください。  
詳細については、3章 セットアップ「Step C-9 障害処理のためのセットアップ」(3-77ページ)を参照してください。
- OSパーティションのページングファイルの[初期サイズ]が「推奨値未満」に設定されていませんか？
  - ページングファイルの[初期サイズ]を「推奨値未満」に設定すると正確なメモリダンプ(デバッグ情報)が採取できない場合があります。  
必ずOSパーティションに「推奨値未満」以上で設定してください。  
詳細については、3章 セットアップ「Step C-9 障害処理のためのセットアップ」(3-77ページ)を参照してください。

### SNMPサービス(snmpp.exe)のCPU負荷率が高くなる

→ ESMPPRO/ServerManagerでサーバを監視中に、ESMPPRO/ServerAgent側のSNMPサービスのCPU負荷率がESMPPRO/ServerManagerのサーバ状態監視間隔(デフォルトは1分)ごとに高くなる場合があります。

ESMPPRO/ServerAgentとESMPPRO/ServerManagerはSNMPサービスを介して、情報のやりとりをします。ESMPPRO/ServerManagerのサーバ状態監視を有効(デフォルトは有効)にしている場合には、定期的にESMPPRO/ServerAgentに対して現在のサーバの状態の取得要求が発行され、それに対してESMPPRO/ServerAgent側はサーバの状態確認を行うために一時的にSNMPサービスのCPU負荷率が高くなります。

動画再生などを行うアプリケーションにおいて「途切れ」などの現象が発生する場合は、ESMPPRO/ServerManagerのサーバ状態監視をOFFにするか監視間隔を広げるなどして運用してください。

### SNMPサービスがハングを起こした

→ SNMPサービスには、SNMP拡張エージェントと呼ばれるモジュールが存在します。このSNMP拡張エージェントは、SNMPサービスを使用するソフトウェアをインストールした時に、登録される場合があります。

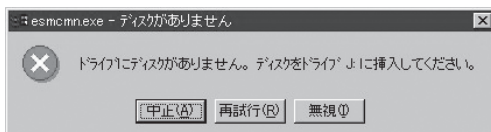
SNMPサービス起動時には、これらのSNMP拡張エージェントの読み込みも含め初期化が行われます。しかし、一定時間内に初期化が完了しなかった場合、SNMPサービスのハングが発生します。

一時的なシステム高負荷などにより、SNMPサービスの初期化に時間がかかり、ハングを起こすことが考えられます。この場合は、システムの負荷が十分に軽くなった後、SNMPサービスを再起動してください。

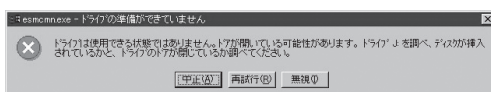
## ? システム起動時にesmcmn.exeのポップアップメッセージが表示される

- MOやDVD-RAMなどのリムーバブルドライブを搭載したシステムにESMPRO/ServerAgentがインストールされており、メディアの内容を参照後、エクスプローラなどの機能を利用してソフトウェアジェクト(エクスプローラのDVDドライブで右クリックし、表示されるリストで「取り出し」を選択する)でメディアを取り出し、エクスプローラなどを終了せずにシステムを再起動すると、以下の内容のポップアップメッセージが表示される場合があります。ポップアップメッセージの表示内容(表示されるドライブ名)は、システムによって異なります。

〈DVD-RAMの場合〉



〈MOの場合〉



上記ポップアップメッセージが表示された場合、ダイアログボックス中の[中止]または[無視]をクリックしてダイアログボックスを閉じてください。

ダイアログボックスを閉じない場合、Workstationサービスおよび関連したサービスが起動できず、システムの運用が不安定になる場合があります。また、システムを再起動する場合はエクスプローラなどメディアを参照しているプログラムを終了させた後に再起動してください。

## ? Express5800/ftサーバとTCP/IPプロトコルで接続されているコンピュータとの間の接続でタイムアウトが発生する

- Express5800/ftサーバ起動直後およびCPUモジュールの再組み込み(二重化処理)時にExpress5800/ftサーバとLANプロトコルで接続されているコンピュータとの間の接続が無通信状態となり、タイムアウトを起こす可能性があります。本現象を回避する設定については、「ネットワーク上のPCのセットアップ」(3-85ページ)を参照してください。

# イベントログについて



## システムイベントログに「NMSサービスは不正に終了しました」というログが記録される

→ システム立ち上げ時、またはPCIモジュール交換後、システムに組み込まれる際に、以下のログがシステムイベントログに記録されることがありますが、動作上問題ありません。

NMSサービスが停止するとPROSet IIでの設定更新が無効となりますが、実際は、PROSet IIを起動するとNMSサービスが自動起動されるため設定更新は正常に行われます。そのままお使いになってください。

「ソース : Service Control Manager  
ID : 7031  
説明 : NMSサービスは不正に終了しました。これは1回発生しています。次の修正動作が0ミリ秒以内に行われます : 何もしない」



## システムイベントログに iANSMiniport関連のログが記録される

→ ソース「iANSMiniport」のログは、LANの二重化に関するログです。システム立ち上げ時に以下のログがシステムイベントログに記録されることがあります(説明中のX: 数字)。

「ソース : iANSMiniport  
種類 : 警告  
ID : 11  
説明 : Adapter link down: Intel(R) Stratus emb-82544GC Copper Gigabit Adapter.」

「ソース : iANSMiniport  
種類 : 警告  
ID : 11  
説明 : Adapter link down: Intel(R) Stratus emb-82544GC Copper Gigabit Adapter #2.」

「ソース : iANSMiniport  
種類 : 警告  
ID : 13  
説明 : Secondary Adapter is deactivated from the Team: Stratus emb-82544GC Copper Gigabit Adapter #2.」

「ソース : iANSMiniport  
種類 : 警告  
ID : 16  
説明 : Team #X: The last adapter has lost link. Network connection has been lost.」

「ソース : iANSMiniport  
 種類 : 警告  
 ID : 35  
 説明 : Initializing Team #X with X missing adapters. Check the configuration to verify that all the adapters are present and functioning.」

上記のログが記録された後、以下のログが記録された場合は、上記のエラー、警告によるシステムへの影響はありません。以下のログが記録されていない場合でも、ソース名 : sragbe のエラーが記録されていない場合は、上記のエラー、警告によるシステムへの影響はありません。

「ソース : iANSMiniport  
 種類 : 情報  
 ID : 14  
 説明 : Secondary Adapter has rejoined the Team: Stratus emb-82544GC Copper Gigabit Adapter.」

「ソース : iANSMiniport  
 種類 : 情報  
 ID : 15  
 説明 : Secondary Adapter link up: Stratus emb-82544GC Copper Gigabit Adapter.」

「ソース : iANSMiniport  
 種類 : 情報  
 ID : 17  
 説明 : Team #X: An adapter has re-established link. Network connection has been restored.」



### システムイベントログに、ESMCpuPerf関連のログが記録される

- システムの一時的なリソース不足や高負荷率などが原因で、OSからパフォーマンス情報が取得できないことを検出した場合にESMPPRO/ServerAgentでは以下のイベントログを登録致しますが、システムの運用に特に問題ははありません(説明中のYとx: 英数字・YYYYは取得できない場合もあります)。

「ソース : ESMCpuPerf  
 ID : 9005  
 説明 : システムのパフォーマンス情報が取得できない状態です(YYYY Code=xxxx)」

なお、情報が取得できない場合には、負荷率は0%として扱うため、連続して情報が取得できない事象が発生した場合、CPU負荷率は実際値よりも低く表示される場合があります。





### アプリケーションイベントログにWMI 関連のログが記録される

→ システム立ち上げ時に以下のログがアプリケーションイベントログに記録されることがありますが、動作上問題ありません。

「ソース : WinMgmt  
ID : 41  
説明 : 009 サブキーで値が見つからなかったため、WMI ADAPはパフォーマンスライブラリvxioのオブジェクトインデックス2902 を作成しませんでした」



### アプリケーションイベントログにvmperf 関連のログが記録される

→ システム立ち上げ時に以下のログがアプリケーションイベントログに記録されることがありますが、動作上問題ありません。

「ソース : vmperf  
ID : 11  
説明 : (ソース vmperf 内)に関する説明が見つかりませんでした。リモートコンピュータからメッセージを表示するために必要なレジストリ情報またはメッセージDLL ファイルがローカルコンピュータにない可能性があります。次の情報はイベントの一部です:。」



### システム起動時にアプリケーションイベントログにソース : Perflib・IISInfoCtrs・W3Ctrs・FTPCtrsのイベントが登録される

□ ソース : Perflibのイベントに関して

→ システム起動時に、アプリケーションログにソース : Perflibでログが登録される場合があります。イベントログに関する詳細情報は、マイクロソフトサポートオンラインに記載されています。それぞれの事象の解決方法の情報を参考にしてください。

－ マイクロソフトサポート技術情報 文書番号 : 226494

[INFO]パフォーマンスモニタ拡張機能のイベント

<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;ja;226494>

－ マイクロソフトサポート技術情報 文書番号 : 296187

パフォーマンスカウンタの開始でアプリケーションログが発生する

<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;ja;296187>

－ マイクロソフトサポート技術情報 文書番号 : 267831

パフォーマンスカウンタをロードするときにイベントID 2003の警告メッセージがログに記録される

<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;ja;267831>



- ソース：IISInfoCtrs・W3Ctrs・FTPCtrsのイベントに関して  
→ システム起動時に、アプリケーションログに以下のソースでログが登録される場合があります。

ソース : IISInfoCtrs,W3Ctrs

イベントID : 1003

ソース : FTPCtrs

イベントID : 1000

イベントログに関する詳細情報は、マイクロソフト サポートオンラインに記載されています。それぞれの解決方法の情報を参考にしてください。

- ー マイクロソフトサポート技術情報 文書番号 : 418200

[IIS]IISInfoCtrsとW3CtrsでイベントID 1003が記録される

<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;ja;418200>

- ー マイクロソフトサポート技術情報 文書番号 : 418199

[IIS]FTPCtrs でイベント ID 1000 が記録される

<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;ja;418199>

マイクロソフトサポートオンラインには、記述したイベントログ以外の技術情報も公開されています。参考として定期的に確認してください。

<http://support.microsoft.com/default.aspx?LN=JA>



#### PCIモジュール起動時にソース：srabbのイベントが登録される

- OS起動時もしくはPCIモジュール起動時に、以下のイベントログが登録されます。

ソース : srabb

イベントID : 32

説明 : "Device 10/0 is now EMPTY" もしくは "Device 11/0 is now EMPTY"

いずれかのイベントログが登録された後、数分以内に以下のイベントログが登録されている場合は上記イベントログは無視してください。

ソース : srabb

イベントID : 62

説明 : "Device 10/0 is now ONLINE" もしくは "Device 11/0 is now ONLINE"」



### Inventoryサービスのイベントが登録される

→ システム負荷等によりシステムから情報が取得できない場合にシステムイベントログに以下のメッセージが登録されます。以下のイベントログメッセージが登録された場合は、Inventoryサービスの再起動が必要となります。以下のイベントログメッセージが登録された場合は、装置構成変更があっても差分検出は通知されません。

ソース : ESMSAFT  
種類 : エラー  
イベントID : 1040  
説明 : ESMPRO InventoryServiceにてSnapshot中にエラーが発生しました。指定されたファイルが見つかりません。

ソース : ESMSAFT  
種類 : エラー  
イベントID : 513  
説明 : ESMPRO InventoryServiceにて装置構成取得待ちでタイムアウトが発生しました。



### システムイベントログにSCSIコントローラエラーが記録される

→ システムのイベントログにソースがsraq160のSCSIコントローラエラーが記録される場合があります。これはハードディスクドライブの処理がOSの要求に間に合わない場合に発生するもので、リトライ機能により正常に処理が継続されます。動作には何ら影響がありませんので、以下のとおり「詳細データ」を確認して、データが「f0030004」または「f0030015」であれば、そのログは無視してください。ただし、上記の詳細データが「f0030004」または「f0030015」であるSCSIコントローラエラーが何度も記録されるようであれば、ハードディスクドライブが故障しているおそれがありますので、保守サービス会社にご連絡ください(目安としては1週間に10回以上)。

# EXPRESSBUILDERについて

「EXPRESSBUILDER」CD-ROMからExpress5800/ftサーバを起動できない場合は、次の点について確認してください。

- POSTの実行中に「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットし、再起動しましたか？
  - POSTを実行中に「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットし、再起動しないとエラーメッセージが表示されたり、OSが起動したりします。
- BIOSのセットアップを間違えていませんか？
  - Express5800/ftサーバのBIOSセットアップユーティリティでブートデバイスの起動順序を設定することができます。BIOSセットアップユーティリティでCD-ROMドライブが最初に起動するよう順序を変更してください。  
<確認するメニュー: 「Boot」>

EXPRESSBUILDER実行中、何らかの障害が発生すると、次のメッセージが表示されます。エラーコードを記録して保守サービス会社に連絡してください。

メッセージ	原因と処理方法
本プログラムの動作対象マシンではありません。	EXPRESSBUILDERの対象マシンではありません。対象マシンで実行してください。
NvRAMへのアクセスに失敗しました。	不揮発性メモリ(NvRAM)にアクセスできません。
ハードディスクへのアクセスに失敗しました。	ハードディスクドライブが接続されていないか、ハードディスクドライブが異常です。ハードディスクドライブが正常に接続されていることを確認してください。

この他にもシステム診断を実行したときに障害を検出するとエラーメッセージが表示されま  
す。表示されたメッセージをメモし、保守サービス会社までご連絡ください。

# Windowsのセットアップについて

## ? セットアップの開始時に次のメッセージが表示された

指定された disk が見つかりません。SW インストールを終了しています。

- システムをインストールするディスクが正しく接続されていないことが考えられます。ハードウェアの取り付け状態や接続状態を確認してください。

## ? CD-ROMからファイルをコピー中に次のメッセージが表示された。

xxxx : Not Ready xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxZ  
xxxx(A), xxxxx(R), xxxxx(F)

- <R>キーを押してください。<R>キーを押しても何度も表示される場合は、セットアップをはじめからやり直してください。それでも同じ結果が出たときは保守サービス会社に連絡して、CD-ROMドライブの点検を依頼してください。

## ? 間違ったプロダクトID/CDキーを入力してしまった。

- 間違ったプロダクトID/CDキーを入力すると再入力を要求されます。正しいキーを入力してください。

## ? ネットワークアダプタの詳細設定ができない。

- Express5800/ftサーバのセットアップでは、ネットワークアダプタの詳細設定は行えません。Windows 2000起動後、コントロールパネルから設定してください。

## ? Windows 2000を正しくインストールできない

- インストール時の注意事項を確認していますか？

- 「Step B-1 OSを再インストールするときのセットアップ手順の開始」(3-35ページ) および「Step B-2 OSを再インストールするときのセットアップ手順の前準備」(3-37ページ)を参照してください。

## ? セットアップの途中で再起動してしまう

- Step A-2またはStep B-3の「起動監視機能の設定を無効にする」(3-23ページ、3-40ページ)を参照し、本装置の起動監視機能の設定を正しいパラメータに設定してください。

## ? ft制御ソフトウェアUPDATE CD-ROMが無い

- ft制御ソフトウェアUPDATE CD-ROMは、ft制御ソフトウェアを最新にアップデートするものであり、装置に添付されていない場合もあります(装置出荷時点で「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに含まれるソフトウェアが最新の場合には、添付されません)。

なおPP・サポートサービスをご購入のお客様は、最新のft制御ソフトウェアのリリース状況を確認し、最新バージョンのft制御ソフトウェアUPDATE CD-ROMを利用してください。

- ?** セットアップ中、CPUモジュールステータスランプ1、およびPCIモジュールステータスランプ1が赤色に点灯する
- モジュールの故障ではありません。セットアップ作業が完了し、各モジュールが正常に二重化された時点でCPUモジュールステータスランプ1とPCIモジュールステータスランプ1は消灯し、CPUモジュールステータスランプ2とPCIモジュールステータスランプ2は緑色に点灯します。各モジュールランプの表示状態の詳細については、ユーザズガイドの「ランプ」(2-16ページ)を参照してください。
- ?** セットアップ中、オペレーティングシステムの選択画面にて「Previous Operating System C:」を選択した
- DOSプロンプトまたは黒い画面が表示されて処理が停止します。  
この場合、<Ctrl>+<Alt>+<Delete>キーを押すか、電源をOFF/ONしてシステムを再起動してください。再起動後、インストールが続行されます。
- ?** セットアップ後、Windows上の操作はできるが各モジュールまたはPCIボードが二重化されない(CPUモジュールステータスランプ2またはPCIモジュールステータスランプ2が緑色に点灯しない)
- セットアップ中、実行中のプログラムのウィンドウを閉じるなどしてインストールを中断させませんでしたか？
- セットアップで実行中のプログラムをウィンドウを閉じるなどして終了させた場合はインストールが中断されます。インストールが中断された場合、Windows上の操作は可能となりますが各モジュールまたはPCIボードが正しく二重化されません。この場合、初めから「Step B-1 OSを再インストールするときのセットアップ手順の開始」(3-35ページ)を実施する必要があります。
- ディスクの二重化設定を行いましたか？
- ディスクの二重化設定を行っていない場合、PCIモジュールステータスランプ2は緑色に点灯しません。「Step C-3 ディスクの二重化を設定する」(3-68ページ)を参照し、ディスクの二重化設定を行ってください。
- ?** 「メモリダンプ(デバッグ情報<sup>®</sup>)の設定」でデバッグ情報の書き込みに「完全メモリダンプ」を指定することができない
- 搭載メモリサイズが2GBを超える場合は「完全メモリダンプ」を指定することはできません(メニューに表示されません)。その場合は「カーネルメモリダンプ」を指定してください。
- ?** ページングファイルの推奨値がわからない
- 「Step B-1 OSを再インストールするときのセットアップ手順の開始」(3-35ページ)の「作成するパーティションサイズについて」(3-36ページ)を参照してください。
- ?** 「ワトソン博士の設定」で診断情報(ログ)の保存先にネットワークパスが指定できない
- ネットワークパスは指定できません。ローカルコンピュータ上のパスを指定してください。

# システムの修復について

## ft制御ソフトウェア(Ver:n.n)UPDATE CD-ROMを使用して「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」を作成することができない

コマンドを正しく指定していますか？

→ LANGJPNは引数です。必ず指定してください。引数にLANGJPNを指定しなかった場合、「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」は作成されません。詳細については「「Express5800/ftサーバシリーズft制御ソフトウェア(Ver:n.n)UPDATE CD-ROM」がある場合」(8-68ページ)を参照してください。

## 回復コンソール起動方法においてHAL選択画面が表示されなかった

回復コンソール起動時、すばやく<F5>+<F6>を押しましたか？

→ 回復コンソール起動方法において<F5>+<F6>を押してHAL選択画面が表示されなかった場合は、回復コンソールは起動しません。画面下に「Press F6 if you need to install a third party SCSI or RAID driver...」と表示されたらすばやく<F5>+<F6>を押してください。HAL選択画面が表示されます。HAL選択画面が表示されなかった場合はシステムを再起動し、「修復プロセス」(8-69ページ)を参照して、回復コンソール起動方法を初めからやり直してください。

## 「Windows 2000 CD-ROMから回復コンソールを起動」を行ったとき、「Press F6 if you need to install a third party SCSI or RAID driver...」が表示されず<F5>+<F6>を押す機会が無かった

画面上に「Press any key to boot from CD」と表示されている間に任意のキーを押しましたか？

→ Windows 2000 CD-ROMから回復コンソールを起動する場合、Windows 2000 CD-ROMからの起動が必要になります。画面上に「Press any key to boot from CD」と表示されている間に任意のキーを押してください。メッセージが表示されている間に任意のキーを押さないとCD-ROMから起動することはできません。CD-ROMから起動されず、「Press F6 if you need to install a third party SCSI or RAID driver...」が表示されなかった場合はシステムを再起動し、「修復プロセス」(8-69ページ)を参照して、回復コンソール起動方法を初めからやり直してください。

## 回復コンソール起動時、しばらく画面が真っ暗になる

→ システムにインストールした回復コンソールの起動を行った場合、回復コンソール起動の画面が表示されるまでしばらくの間、画面が真っ暗になりますが、システムは動作しています。しばらくそのままお待ちください。

### ? システムのアップデート中のシステム再起動において、OSストップエラーとなった

→ システムのアップデート処理中、「Windows –FTの孤立化 フォールトトレラントボリュームの一部であるディスクにアクセスできません」のメッセージが表示され、その後の再起動において、OSストップエラーとなる場合があります。OSストップエラーが発生した場合には、「システムのアップデート」の手順7の重要を参照し、システムの起動を行ってください。なお、「Windows –FTの孤立化 フォールトトレラントボリュームの一部であるディスクにアクセスできません」が表示された場合はシステムのアップデートは正常に行われておりますが、ディスクのミラーは外れています。システム起動後に必ずディスクのミラーを確認してください。

### ? システムのアップデート後、PROSet IIが起動しない

LANの二重化を解除してPROSet Iをアンインストールした後、システムを再起動しましたか?

→ LANの二重化を解除してPROSet IIをアンインストールした後に再起動を行わず、システムのアップデートを実施した場合、PROSet IIが起動されません。また、システムの動作が不安定になる場合があります。

システムを再起動せずにシステムのアップデートを実施した場合は、以下の手順で再度PROSet IIをインストールしてください。

1. コマンドプロンプトを起動する。
2. コマンドプロンプトから `c:\¥pnpdrivers¥procomp /proset /s`を実行する。
3. システムを再起動する。
4. LANの二重化を設定する。

# マスターコントロールメニューについて

## オンラインドキュメントが読めない

- HTMLブラウザが正しくインストールされていますか？
  - オンラインドキュメントは、HTML文書です。あらかじめHTMLブラウザ (Internet Explorer 5.x以降) をご使用のオペレーティングシステムへインストールしておいてください。
- HTMLファイルの関連付けは正しいですか？
  - オンラインドキュメントはCD-ROM上のローカルファイルをアクセスします。Internet ExplorerとNetscape Communicatorが共存しているとHTML文書の拡張子(.htm、.html)がブラウザに正しく関連付けられていないことがあります。次の手順で (Internet Explorer 5.0の場合) 関連付けを設定してください。
    1. Internet Explorerを起動する。
    2. Internet Explorerのメニューから、[ツール]—[インターネットオプション] を選択する。
    3. [プログラム]タブをクリックし、[Webの設定のリセット]をクリックする。
    4. 確認のダイアログボックスが現れるので[はい]をクリックする。
- Adobe Acrobat Readerが正しくインストールされていますか？
  - オンラインドキュメントの文書の一部は、PDFファイル形式で提供されています。あらかじめAdobe Acrobat Reader (Version 4.05以上) をご使用のオペレーティングシステムへインストールしておいてください。なお、Adobe Acrobat Readerは、EXPRESSBUILDERからインストールすることができます。マスターコントロールメニューを起動後、[ソフトウェアのセットアップ] の[Adobe Acrobat Reader]を選択してください (インストール後、Acrobat Readerを起動して使用許諾契約書に同意してからご使用ください)。

## オンラインドキュメントの画像が見にくい

- ご使用のディスプレイは、256色以上の表示になっていますか？
  - ディスプレイの設定が256色未満の場合は、画像が見にくくなります。256色以上の表示ができる環境で実行してください。

## マスターコントロールメニューが表示されない

- ご使用のシステムは、Windows NT 4.0以降、またはWindows 95以降ですか？
  - CD-ROMのAutorun機能は、Windows 2000、およびWindows NT 4.0、Windows 95以降でサポートされた機能です。それ以前のバージョンでは自動的に起動しません。ご注意ください。
- <Shift>キーを押していませんか？
  - <Shift>キーを押しながらCD-ROMをセットすると、Autorun機能がキャンセルされます。
- システムの状態は問題ありませんか？
  - システムのレジストリ設定やCD-ROMをセットするタイミングによってはメニューが起動しない場合があります。そのような場合は、CD-ROMの¥MC¥1ST.EXEをエクスプローラ等から実行してください。



## ESMPRO/ServerAgentについて

→ 「ユーティリティのインストールと操作」の6-16ページ以降の説明を参照してください。

## ESMPRO/ServerManagerについて

→ 「ユーティリティのインストールと操作」の6-43ページ以降の説明を参照してください。また、添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROM内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerManagerインストールガイド」でトラブルの回避方法やその他の補足説明が記載されています。参照してください。



### セットアップメインメニューで選択できないメニューがある

→ OSの種類に合わせて、選択できるメニューが変わります（インストールできないものは、グレー表示になります）。



### ESMPRO/ServerAgentのセットアップを途中で中止したい

→ セットアップの実行中に[キャンセル]をクリックすると、インストールを中止するかどうかをたずねるメッセージが表示されます。メッセージボックスで[中止]をクリックするとインストールを中止できます（メインメニューは表示されたままです）。ただし、途中までセットアップされたファイルの削除は行われません。



### ESMPRO/ServerAgentのセットアップ中に「ESMPRO/ServerAgentが既にインストールされています。」のメッセージが表示された

→ ESMPRO/ServerAgentが既にインストールされている場合は「ESMPRO/ServerAgentが既にインストールされています。」というダイアログボックスが表示されます。[更新]をクリックして[次へ]をクリックすると以前のエージェントを削除し、新たにインストールし直します。



### ESMPRO/ServerAgentのインストールで、機種選択ダイアログボックスが表示されない

→ ESMPRO/ServerAgentのセットアッププログラムが機種判別に成功した場合は、機種を選択するダイアログボックスが表示されずに次に進みます。



### DMI2.0 SP(Service Provider)のインストール先ディレクトリを変更したい

→ ESMPRO/ServerAgentではIntel DMI2.0 SP Ver.2.62を利用しています。DMI2.0 SPはESMPROのインストール時に選択されたDMI用のインストール先ディレクトリ（システム環境変数=WIN32DMIPATH）配下に環境を作成します。すでにDMI2.0 SPがインストールされている場合には、設定されているインストール先を使用するためインストール先ディレクトリを変更することはできません。

## ESMPRO/ServerAgentのアンインストールができない

- システム起動直後にESMPRO/ServerAgentのアンインストールを行うと、[サービスの削除中...]のダイアログボックスを表示した状態でセットアッププログラムが止まってしまうことがあります。いったん「アプリケーションの切り換え」などで強制終了してください。その後システムが完全に起動してからアンインストールしてください。
- エクスプレス通報サービスをご利用の場合、ESMPRO/ServerAgentのアンインストールの前にエクスプレス通報サービスを削除してください。エクスプレス通報サービスの削除方法については「エクスプレス通報サービスインストールガイド」を参照してください。

## DMI2.0 SP(Service Provider)をアンインストールしたい

- ESMPRO/ServerAgentのインストールを行うとDMI2.0 SP (Service Provider)のアンインストーラが登録されます。アンインストーラを使用してDMI2.0 SPを削除することができます。ただし、ESMPRO/ServerAgentをアンインストールしてから削除してください。
  1. [コントロールパネル]から[アプリケーションの追加と削除]を起動する。
  2. [DMI2.0 SP (ESMPRO)]を選択して[追加と削除]をクリックする。

## ESMPRO/ServerAgentからのトラップがESMPRO/ServerManagerに正しく受信されない

- ESMPRO/ServerManager側の設定で受信するトラップのコミュニティをデフォルトの「public」から変更した場合は、SNMPサービスの設定を変更する必要があります。3章を参照し、ESMPRO/ServerManager側で新しく設定したコミュニティ名と同じものを設定してください。ESMPRO/ServerAgentからのトラップがESMPRO/ServerManagerに正しく受信されるためには、双方のコミュニティ名が一致する必要があります。

## ESMPRO/ServerManagerにアラートが重複して通報される

- SNMPサービスのトラップ送信先に指定されている相手ESMPRO/ServerManagerのIPアドレス(またはホスト名)をマネージャ通報(TCP/IP)の設定で指定した場合、重複していることを警告するメッセージを表示します。同一のESMPRO/ServerManagerを指定するとアラートが重複して通報されます。

## ESMPRO/ServerManagerからの監視ができない

- SNMPサービスのトラッププロパティシートのコミュニティ名に「public」以外のコミュニティ名を入力した場合は、3章を参照し、セキュリティプロパティシートの「受け付けるコミュニティ名」にもその値を追加してください。「受け付けるコミュニティ名」の権利を「READ CREATE」または「READ WRITE」以外の権利に設定すると、ESMPRO/ServerManagerからの監視ができなくなります。

## ❓ ESMPRO/ServerManagerからのSNMPパケットをESMPRO/ServerAgent側で受信できない

- SNMPサービスのSNMPパケットを受け付けるコミュニティ名をデフォルトの「public」から任意の名前に変更した場合は、[コントロールパネル]からESMPRO/ServerAgentのコミュニティ変更登録を行う必要があります。コミュニティの変更登録には[全般]タブの[SNMPコミュニティ]リストボックスを使います。

ESMPRO/ServerManagerからのSNMPパケットをESMPRO/ServerAgent側で正しく受信できるようにするためにはESMPRO/ServerManager側の設定の送信コミュニティ名とESMPRO/ServerAgent側のSNMPサービスが受け付けるコミュニティ名を同じにしてください。

## ❓ ESMPRO/ServerAgentが正しく動作しない

- OSのインストールの際にサービスパックを適用してからSNMPサービスを追加した場合は、再度サービスパックを適用してください。SNMPサービスが正しく動作せず、ESMPRO/ServerAgentが動作しなくなることがあります。
- ESMPRO/ServerAgentの動作にはSNMPサービスが必須です。ESMPRO/ServerAgentをインストールした後にSNMPサービスを削除してしまった場合は、SNMPサービスをインストール後、ESMPRO/ServerAgentを再インストールしてください。
- 他社製ソフトウェアの中には、SNMPサービスを使用しているものがあります。このようなソフトウェアがインストールされている状態で、SNMPサービスとESMPRO/ServerAgentをインストールすると、ESMPRO/ServerAgentのサービスが起動できない問題が発生する場合があります。このような場合は、いったんSNMPサービスを削除して、SNMPサービスを再インストールしてください。その後で、ESMPRO/ServerAgentと上記他社製ソフトウェアを再インストールしてください。

## ❓ CPU情報で「不明」もしくは不正な情報が表示される

- データビューアのFTServerツリーの[CPUモジュール]—[CPU]を選択した場合、一部情報の項目で「不明」もしくは不正な情報が表示されます。CPU情報に関しては、ESMPRO MIBツリーの[システム]—[CPU]で情報が参照できます。こちらで確認してください。

## ❓ データビューアのツリーの再構築を促すメッセージが表示される

- データビューアによりサーバ情報を参照中に、当該システムのCPUモジュールまたはPCIモジュールの構成を動的に変更した場合、データビューアのツリーの再構築を促すメッセージが表示されます。[はい]をクリックするとデータビューアでツリーの再構築を行い、システムの構成変更がデータビューア上に反映されます。[いいえ]をクリックすると、データビューアのツリーの再構築は行われません。その場合、システムの構成変更が反映されないため、データビューアの情報は現在のシステムの情報と異なる可能性があります。

### **?** SCSIアダプタ情報に不正な情報が表示される

→ データビューアおよびWebコンポーネントのデータビューアで[SCSIアダプタ]—[一般情報]を参照した際、項目「シリアル番号」、「ROMBIOSリビジョン」に不正な情報が表示される場合があります。「ROMBIOSリビジョン」は、システム起動時のPOST画面で確認してください。

### **?** SCSIバスの「設定」項目がグレイ表示される

→ データビューアのFT Serverツリーの[PCIモジュール]—[SCSIアダプタ]—[SCSIバス]を参照する場合、「設定」項目がグレイ表示される場合があります。SCSIバスのプライマリ状態は、上位モジュールであるPCIモジュールの状態と同一になりますので、PCIモジュールの状態(プライマリ/セカンダリ)を確認してください。

### **?** SCSIスロット情報が不正な状態で表示される

→ PCIモジュールを取り外した状態で、データビューアおよびWebコンポーネントのデータビューアの[SCSIスロット]—[一般情報]を参照した際、「ハードウェアLED」の情報が不正な状態で表示される場合があります。SCSIスロットの状態を確認するには、「状態」項目に表示される文字列情報を参照してください。

### **?** モジュールの状態が「故障」と表示される

→ PCIモジュール、SCSIアダプタ、SCSIバス、およびSCSIエンクロージャ配下のモジュールの状態は相互に影響を及ぼします。モジュールの「状態」項目が「故障」に変化した場合などは、他のモジュールの障害が原因の場合も考えられますので、アラート通報などを参考にしながら他のモジュールの状態も確認してください。

### **?** ハードディスクドライブ取り付け後の状態色がさまざまな状態に変化する

→ ミラーを新たに作成する場合、ハードディスクドライブを取り付けた後、ミラーの作成が完了するまでの間、ハードディスクドライブの状態およびその上位コンポーネントであるSCSIエンクロージャの状態はさまざまな状態に変化します。その過程で、状態色が異常色に変化することもあります。ミラーの作成に成功すると正常色になります。

### **?** ファイルシステムの監視間隔、空き容量監視のしきい値の変更が反映されない

→ ESMPRO/ServerAgentのファイルシステム監視機能による監視間隔変更、空き容量監視のしきい値変更などの設定変更は、変更してもすぐには反映されません。設定変更を実施した後、監視サービスの次の監視間隔で変更した設定が有効になります。

### **?** 回線障害や回線高負荷が通報される

→ LAN監視機能では一定時間内の送受信パケット数とパケットエラー数により回線の状態を判断するため、一時的な回線高負荷状態の場合にも回線障害や回線高負荷を通報することがあります。すぐに状態回復が通報される場合は一時的な回線高負荷が発生したと考えられますので、特に問題はありません。

### ? LAN監視のしきい値が反映されない

- Express5800/ftサーバでは、ネットワークのハードウェア障害はドライバレベルで検出するので ESMPRO/ServerAgentでは回線障害を監視しません。そのため、コントロールパネルの[ESMPRO ServerAgentのプロパティ]の[LAN]タブの「回線障害発生の割合」の設定値は使用されません。

### ? ESMPRO/ServerManagerからのリモートシャットダウン機能やしきい値の変更機能を使用できない

- OSの種類やバージョンによっては、SNMPサービスのセキュリティ機能であるコミュニティが設定されていなかったり、権利の初期設定が異なったりします。ESMPRO/ServerManagerからのリモートシャットダウン機能やしきい値の変更機能を使用するためには、コミュニティを設定し、その権利を「読み取り、作成」(「READ CREATE」)または「読み取り、書き込み」(「READ WRITE」)に設定してください。

### ? スリープ状態のシステムを監視できない

- ESMPRO/ServerAgentマシンがスリープ状態(システムスタンバイ、システム休止状態)の場合、ESMPRO/ServerManagerからスリープ中のESMPRO/ServerAgentマシンを監視することはできません。ESMPRO/ServerManagerからサーバダウン監視を行っている場合に該当するESMPRO/ServerAgentマシンがスリープ状態になると「サーバアクセス不能」の通報が上がり、サーバアイコンの状態色が灰色になり、ESMPRO/ServerAgentマシンがダウンしたのかスリープ状態なのか区別することができません。監視対象のシステムをスリープ状態になるような設定を行って運用される場合は注意してください。

### ? ESMPRO/ServerManagerで監視できない項目がある

- バージョン3.8以前のESMPRO/ServerManagerで監視する場合は、監視できない項目があります。ESMPRO/ServerManager Ver.4.0は、装置添付のCD-ROMに登録されています。そちらを利用していただくようお願いします。

### ? ESRASユーティリティで各種ログを参照できない

- ESRASユーティリティは、ESMPRO/ServerAgentがインストールされたExpress5800シリーズにおいて動作する各種ログの参照、印刷、ファイルへの出力および初期化を行うソフトウェアです。ESMPRO/ServerManager Ver.3.8以前のESRASユーティリティを使用する場合、各種ログを参照できない装置があります。必ずESMPRO/ServerManager Ver.4.0以降のESRASユーティリティを使用してください。装置添付のCD-ROMには、ESMPRO/ServerManager Ver.4.0が登録されています。Ver.4.0に含まれるESRASユーティリティを使用してください。



## プリンタ情報の利用可能時間と終了時刻が不正に表示される

→ 新しくプリンタを接続し、ドライバのインストールやコンフィグレーションを行った時に、プリントマネージャから利用可能時間/終了時刻の設定を行わなかった場合、プリントマネージャで表示される利用可能時間/終了時刻は[00:00]ですが、マネージャで表示される利用可能時間/終了時刻は[9:00]となります。これを正しく表示するようにするためにはプリントマネージャでプリンタの詳細を設定してください。設定方法は以下の通りです。

1. プリントマネージャを起動し、設定したいプリンタのプリンタ情報画面を開く([プリンタ]→[プリンタ情報])。
2. [詳細]でプリンタ詳細画面を開く。
3. 利用可能時間/終了時刻を設定し、プリンタ詳細画面、プリンタ情報画面でそれぞれ[OK]をクリックして終了する。

以上でマネージャからも正しい情報が表示されるようになります。



## 監視イベントが通報されない

→ アラート通報機能はシステムのイベントログに登録されたイベント情報を元に通報を行っています。そのためイベントビューアのイベントログの設定にてイベントログの処理を[必要に応じてイベントを上書きする]に設定してください。それ以外の設定では通報がされません。

→ アラート通報機能の設定ツール(アラートマネージャ)の監視イベントツリーに登録されたイベントは、Alert Manager Main Serviceが起動していないとマネージャなどへ通報されません。また上記サービスが起動している場合でも、各通報手段の通報有効/無効フラグが無効になっていると通報されません。通報有効/無効フラグは、アラートマネージャの[設定]メニューから[通報基本設定]を選択し、[通報手段の設定]プロパティで設定します。同様に、システム起動時にEventlogサービスが起動以前に発生したイベントについては通報できません。

→ アラート通報機能の設定ツール(アラートマネージャ)の[通報基本設定]-[その他の設定]において、シャットダウン開始までの時間を設定できます。初期値は20秒になっています。この値を初期値より短くした場合にシャットダウン時の通報が行われない場合があります。

→ 監視対象イベントの通報時に通報障害が発生した場合、エラーメッセージがイベントログに登録されます。この通報時に発生するエラーメッセージを監視対象イベントとして新規登録してしまうと、通報時のエラーを再度通報してしまうことになり、障害復旧時に大量の通報が行われてシステムの負荷が高くなり、性能が低下することになります。特に下記アラート通報機能のサービスが出力するイベントは監視対象としないでください。

- Alert Manager ALIVE(S) Service
- Alert Manager Main Service
- Alert Manager Socket(S) Service



### ？ I/Oデバイス画面プリンタ情報のネットワーク共有名が正しく表示されない

→ プリントマネージャの[プリンタの作成]および[プリンタ情報]において、[ネットワーク上で共有]の設定を行い、[共有名]の設定で2バイト文字を使用した場合、ESM/ServerManager Ver.2.1以前のマネージャを使用されている場合は、データビューアのI/Oデバイス画面プリンタ情報のネットワーク共有名が正しく表示されないことがあります。

### ？ 温度/電圧/ファン監視のしきい値を変更したい

→ ESMPRO/ServerAgentからは温度/電圧/ファンのしきい値の表示/変更はできません。ただし、機種によってはESMPRO/ServerManagerのデータビューアでしきい値の表示のみできるものがあります。ESMPRO/ServerAgentはそれぞれの機種で設定された最適なしきい値により監視を行っています。

### ？ ESMPRO/ServerAgentを使用中にディスクに関する作業をしたい

→ ESMPRO/ServerAgentを使用中にディスク(ハードディスクドライブやMOなど)に対する以下のような作業はできません。

- ディスクアドミニストレータなどでのパーティションのフォーマットや削除
- MO、Zip、PDなどのリムーバブルディスクのソフトウェアからのメディアの取り出し要求

これらの作業は次の手順で行ってください。

1. [コントロールパネル]の[サービス]を開く。
2. 「ESMCommonService」という名前のサービスを選択後、[停止]をクリックする。
3. 「ESMCommonService」の停止を確認後、[コントロールパネル]の[サービス]を閉じる。
4. ディスク関連の作業を行う。
5. 再び[コントロールパネル]の[サービス]を開き、「ESMCommonService」を選択後、[開始]をクリックする。
6. 「ESMCommonService」の開始を確認後、[コントロールパネル]の[サービス]および[コントロールパネル]を閉じる。

### ？ アラートの詳細情報が「不明」と表示される

→ アラートビューアで表示されるアラートの詳細情報は、アラートによって一部の情報が「不明」と表示されるものがあります。

### ？ ソフトウェアALIVE、ページャオンラインの表示情報が「不明」と表示される

→ システム環境情報画面のRAS情報の表示画面でソフトウェアALIVE、ページャオンラインの表示は、ソフトウェアALIVE、ページャオンラインの有効・無効にかかわらず常に「不明」と表示されます。

### ？ 更新インストールの際、更新前のしきい値などの設定を引き継ぎたい

→ ESMPRO/ServerAgent Ver.4.0の更新インストールでは、更新前のしきい値などの設定が自動的に引き継がれます。



### 温度/電圧/ファンセンサの表示が不正である

→ 機種によっては、状態や現在値、回転数、しきい値などの情報を持たない温度/電圧/ファンセンサが存在します。そのため、ESMPRO/ServerManagerで該当センサを参照した場合に、以下のように表示されることがありますので注意してください。

- データビューアで、状態が「不明」となる(灰色表示される)。
- データビューアで、現在値や回転数が「不明」と表示される。
- Webコンポーネントのデータビューアで、状態が灰色表示される。
- Webコンポーネントのデータビューアで、現在値や回転数に何も表示されない。

上記のように表示されていても、監視は行っていますので問題ありません。



### Microsoft SQLServer6.5との混在時のCPU負荷率が増加する

→ 以下の状況でお使いの場合、ESMPRO/ServerAgentのサービスのCPU負荷が上昇(+10%以上)する場合があります。

#### <条件>

- 同一マシンにMicrosoft SQLServer6.5とESMPRO/ServerAgentがインストールされていて、サービスが起動している。
- Microsoft SQLServer6.5のオプション[パフォーマンスモニタ統合]のチェックがオンになっている。

#### <確認方法>

Windows 2000/Windows NTのパフォーマンスモニタを使用して、MicrosoftSQLServer6.5のオプションで[パフォーマンスモニタ統合]のチェックをオンした場合とオフした場合とで以下の値を比較してください。

オブジェクト： Process  
カウンタ： % Processor Time  
インスタンス： ESMCMN

チェックを変更した後には必ずシステムを再起動してください。再起動しないと、パフォーマンスモニタでサービスの正しい負荷率は取得できません。

#### <対処方法>

「確認方法」で取得したCPU負荷率がSQLServerオプションのチェックのオン/オフで大きく違う場合はチェックをオンにすることによるCPU負荷率の増加と考えられます。これは、SQLServerオプションがオンに設定されていることでOSから取得するパフォーマンスデータの項目が増加し、それに伴いOSからパフォーマンスデータを取得するサービス内のパフォーマンスデータ解析処理に時間を必要とするために発生します。もし、SQLServerのパフォーマンスデータを監視する必要が無いのであれば、不必要なパフォーマンスデータを取得することによるCPU負荷の増加を避けるためにSQLServerオプションをオフにするようにしてください。



## ❓ CPU/PCIモジュールの温度/電圧異常が発生した

- CPU/PCIモジュールにおいて温度/電圧の異常が発生した場合、CPU/PCIモジュールの状態により、以下のように動作が異なります。各モジュールの状態はftサーバユーティリティまたはESMPRO/ServerManagerのデータビューアによって確認できます。

状態	動作
Duplex	異常が発生したCPU/PCIモジュールの停止
Duplex, Empty以外	システムのシャットダウン

- ー 状態がEmptyの場合は、モジュールが実装されていないためセンサの監視は行われません。
- ー PCIモジュールにディスクが実装される装置において、ディスクのミラーリング中は、両方のPCIモジュールの状態はSimplexとなります。ミラーリング中に温度/電圧の異常が発生した場合は、システムのシャットダウンが行われます。

## ❓ CPU情報の外部クロックが「不明」と表示される

- データビューアのシステムツリーのCPU情報の外部クロックは「不明」と表示されます。

## ❓ データビューアの[Ft Server]ツリーの表示が不正である

- システム起動直後や、CPUモジュール、PCIモジュールの起動/停止後などに、データビューアの起動、またはツリーの再構築を行った場合、データビューアの[Ft Server]ツリー側が正常に表示されない場合があります。その場合は約5分待ってから、再度、データビューアの起動を行ってください。

## ❓ フロッピーディスク情報の表示が不正である

- プライマリ側のPCIモジュールを抜き差しすると、データビューアの[I/Oデバイス]のフロッピーディスクドライブの名前がOSで認識しているドライブ名と異なる場合があります。

(例：データビューアの表示："A:"、OSの認識しているドライブ名："B:")

フロッピーディスクのドライブ名を確認する際は、「エクスプローラ」等で確認してください。

- システム動作中にUSB接続のフロッピーディスクドライブの追加、削除を行った場合、データビューアの[I/Oデバイス]配下のドライブ情報に反映されるのは次回システム起動時になります。

## ❓ Oracle製品とESMPRO/ServerAgentが共存している環境で、ESMPRO/ServerAgentが正しく動作しない

- Oracle製品をインストールすると、SNMP Serviceのスタートアップが「手動」に変更される場合があります。この場合は、設定を「自動」に戻した上で、Oracle製品の説明書に従って正しい設定を行ってください。不明点等は『NECオラクルレスポンスセンター』へお問い合わせください。



### 「過去のイベントを検知しました」というイベントが登録される

→ MSCS を使用した場合、以下のイベントが登録され、ESMPRO / ServerManagerに通報される場合があります。

ソース : AlertManagerMainService  
ID : 802  
内容 : Systemログ監視中に過去のイベントを検知しました。以下の原因が考えられます。  
- システム時刻が変更された。  
- シャットダウンが正常に行われなかった。  
- イベントログファイルが壊れている。

MSCSでは、クラスタ構成にしているコンピュータのイベントがすべて見えるという機能がありますが、日付順にイベントがイベントログに格納されないことがあります(片方をシャットダウン、または、起動した時など)。

ESMPRO/ServerAgentでは、イベントが日付順になっているかをチェックしているため、日付順でないイベントを発見すると「過去のイベントを検出した」ということで、上記イベントを登録します。MSCSの機能が原因で、このイベントが登録された場合でも、イベントログ監視機能は継続していますので、日付順に並んでいるイベントに対しては正しく機能します。



### 二重化システム管理をしたい

→ 二重化システム管理を行う場合は、運用/待機両系別々にローカルディスクにインストールします。ESMPRO/ServerAgentのインストールは2台のサーバにインストールすること以外は通常のインストールと同じです。



### シリアルポートの使用について

→ シリアルポートがサポートされている機種の場合、以下の点に注意願います。ESMPRO/ServerAgentは、シリアルポートを使用する機能が複数あります。これらの機能を使う場合、ポートが不足する可能性があります。それぞれの機能で使用できるシリアルポートは以下のとおりです。

UPS : COM1~10  
APCU : COM1~2  
ALIVE通報 : COM1~9  
ALIVE保守\* : COM1~9  
ページャ通報 : COM1~9

\* ALIVE保守はリモートアクセスサービス(Remote Access Service)を利用します。

マネージャ通報(TCP/IP Out-of-Band)でリモートアクセスサービスを利用する場合に使用できるシリアルポートは以下のとおりです。

マネージャ通報(TCP/IP Out-of-Band) : COM1~10

このうち、シリアルポートを共有できるのは、以下の組み合わせだけです。

#### ● ALIVE通報+ALIVE保守+ページャ通報

ALIVE通報時、ALIVE保守用のリモートアクセスサービスが停止させられます。ALIVE通報を終了後、リモートアクセスサービスを開始します。ALIVE保守が長時間シリアルポートを使っているとページャ通報ができないことがあります(ページャ通報時はRASサービスは停止させられません)。

- ALIVE通報+ページャ通報  
どちらか一方の機能で回線を使用しているときはもう一方の機能は使えません。
- ALIVE通報+ALIVE保守  
ALIVE通報時、ALIVE保守用のリモートアクセスサービスが停止させられます。
- ALIVE保守 + ユーザ利用リモートアクセスサービス  
どちらか一方の機能で回線を使用しているときはもう一方の機能は使えません。

ー リモートアクセスサービスを使用するマネージャ通報(TCP/IP Out-of-Band)は、他のシリアルポートと共有すると障害情報が通知できない場合があります。共有は避けてください。また、ユーザー業務やALIVE保守とALIVE通報でポートを共用した場合でもリモートアクセスサービスが停止し、障害情報が通知できない場合があります。

ー ユーザーがリモートアクセスサービスを使用する場合は、ALIVE通報/保守用のリモートアクセスサービスのシリアルポートとの共有は避けてください。共有した場合、ユーザーがリモートアクセスサービス利用中でも、ALIVE通報時に強制的に切断し、通報を行います。

次表にシリアルポートとデバイス(または機能)の組み合わせと必要となるモデムの数について示します。マネージャのリモート監視については記載していません。

ー COM3以上を使う場合は多回線ボードが必要です。

COM1	COM2	COM3	COM4	モデム数
APCU	UPS	ALIVE,PG	RAS(M,U)	2
APCU	UPS	ALIVE	RAS(M,U)	2
APCU	UPS	PG	RAS(U)	2
APCU	UPS	ALIVE,PG,RAS(M)		1
APCU	UPS	ALIVE,RAS(M)		1
APCU	UPS	PG		1
APCU	UPS	RAS(U)		1
UPS	ALIVE,PG	RAS(M,U)		2
UPS	ALIVE	RAS(M,U)		2
UPS	PG	RAS(U)		2
APCU	ALIVE,PG	RAS(M,U)		2
APCU	ALIVE	RAS(M,U)		2
APCU	PG	RAS(U)		2
UPS	ALIVE,PG,RAS(M)			1
UPS	ALIVE,RAS(M)			1
UPS	PG			1
UPS	RAS(U)			1
APCU	ALIVE,PG,RAS(M)			1
APCU	ALIVE,RAS(M)			1
APCU	PG			1
APCU	RAS(U)			1
APCU	UPS			1
ALIVE,PG	RAS(M,U)			2
ALIVE	RAS(M,U)			2
PG	RAS(U)			2
APCU				1
UPS				1
ALIVE,PG,RAS(M)				1
PG				1
RAS(U)				1
ALIVE,RAS(M)				1

### テープ装置の障害監視を行いたい

- ESMPRO/ServerAgentでは、テープ装置の障害監視は行いません。監視を行う場合は、バックアップソフトウェアや、テープ監視アプリケーションをご利用ください。ESMPRO/ServerAgentのイベント監視機能を使用することにより、バックアップソフトウェアまたはアプリケーションが登録するイベントログを監視することが可能です。

### CLUSTERPRO使用システムでファイルシステム監視が引き継げない

- 弊社のCLUSTERPROによるクラスタ環境でESMPRO/ServerAgentを使用する場合、次のような制限事項があります。

運用系サーバで設定した空き容量監視機能のしきい値、監視の有効／無効は、フェールオーバーが発生した場合、待機系サーバへ引き継がれません。必ず、待機系サーバでしきい値、監視の有効／無効を設定し直してください。

### 筐体カバー監視のアラートが通報されない

- 筐体カバー監視をサポートしている機種でも、初期設定では筐体カバーの開閉に伴うアラート通報は行われません。アラート通報機能の設定ツール(アラートマネージャ)で設定を変更することにより、筐体カバーの開閉のアラート通報を行うことができます。ただし上記設定に関係なく、ESMPRO/ServerManagerの統合ビューアのサーバ状態色やデータビューアには筐体カバーの状態が反映されます。

### シャットダウン監視をする

- シャットダウン監視を行う場合、すべてのシャットダウン処理が監視対象となります。OSの再起動や電源OFFを伴わないようなシャットダウンを使用するアプリケーションがある場合は、タイムアウト時間を長めに設定するか、または監視をOFFにしてください。

### イーサネットボードの状態が異常と表示される

- 使用しない(ケーブルを接続しない)イーサネットアダプタについては、コントロールパネルの[ネットワーク接続]などで無効に設定してください。なお、無効にするイーサネットアダプタでLANの二重化(AFT機能)の設定を行っている場合は、LANの二重化を解除してから無効の設定を行ってください。無効の設定を行っておらず、イーサネットアダプタにケーブルを接続していない場合、ESMPRO/ServerAgentではそのポートを故障(媒体なし)と判断し、データビューアの[FtServer]-[PCIモジュール]-[イーサネットボード]の状態色は赤(異常)、また統合ビューアのサーバの状態色も赤(異常)となります。

# 障害情報の採取

万一障害が起きた場合、次の方法でさまざまな障害発生時の情報を採取することができます。



- 以降で説明する障害情報の採取については、保守サービス会社の保守員から情報採取の依頼があったときのみ採取してください。
- 障害発生後に再起動されたとき、仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示されることがありますが、そのままシステムを起動してください。途中でリセットし、もう一度起動すると、障害情報が正しく採取できません。

## イベントログの採取

Express5800/ftサーバに起きたさまざまな事象(イベント)のログを採取します。

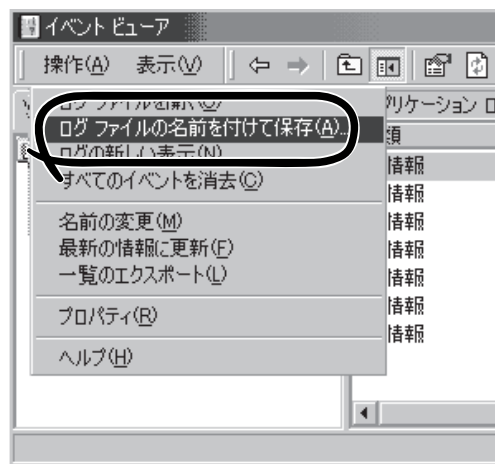


STOPエラーやシステムエラー、ストールが起きている場合はいったん再起動してから作業を始めます。

1. コントロールパネルから[管理ツール]—[イベントビューア]をクリックする。
2. 採取するログの種類を選択する。

[アプリケーションログ]には起動していたアプリケーションに関連するイベントが記録されています。[セキュリティログ]にはセキュリティに関連するイベントが記録されています。[システム ログ]にはWindows 2000のシステム構成要素で発生したイベントが記録されています。

3. [操作]メニューの[ログファイルの名前を付けて保存]コマンドをクリックする。
4. [ファイル名]ボックスに保存するアーカイブログファイルの名前を入力する。
5. [ファイルの種類]リストボックスで保存するログファイルの形式を選択し、[OK]をクリックする。



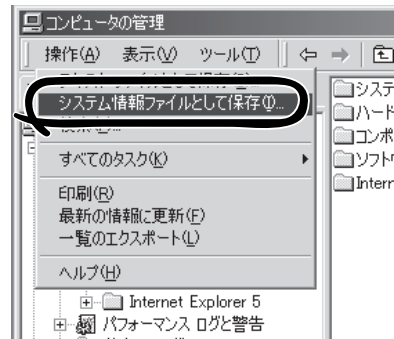
## 構成情報の採取

Express5800/ftサーバのハードウェア構成や内部設定情報などを採取します。  
情報の採取には「診断プログラム」を使用します。



STOPエラーやシステムエラー、ストールが起きている場合はいったん再起動してから作業を始めます。

1. スタートメニューの[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックする。  
[コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。
2. [管理ツール]アイコンをダブルクリックし、[コンピュータの管理]アイコンをダブルクリックする。  
[コンピュータの管理]ダイアログボックスが表示されます。
3. [システムツール]-[システム情報]をクリックする。
4. [操作]メニューの[システム情報ファイルとして保存]コマンドをクリックする。
5. [ファイル名]ボックスに保存するファイルの名前を入力する。
6. [保存]をクリックする。



## ワトソン博士の診断情報の採取

ワトソン博士を使って、アプリケーションエラーに関連する診断情報を採取します。  
診断情報の保存先は任意で設定できます。  
詳しくはスタートメニューの[ファイル名を指定して実行]で「drwtsn32.exe」で起動する  
[Windows 2000 ワトソン博士]ダイアログボックスにある[ヘルプ]を参照してください。

# メモリダンプの採取

障害が起きたときのメモリの内容をダンプし、採取します。ダンプをDATに保存した場合は、保存に利用したソフトウェアの名称(例:NTBackup)をラベルに記載しておいてください。診断情報の保存先は任意に設定できます。詳しくは「メモリダンプ(デバッグ情報)の設定(3-77ページ)」を参照してください。



- 保守サービス会社の保守員と相談した上で採取してください。正常に動作しているときに操作するとシステムの運用に支障をきたすおそれがあります。
- 障害の発生後に再起動したときに仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。途中でリセットして起動し直すと、データを正しくダンプできない場合があります。

## 採取のための準備

DUMPスイッチを押してダンプを実行した後にExpress5800/ftサーバをリセットできなくなる場合があります。この場合、強制シャットダウン(5-38ページ参照)でExpress5800/ftサーバを強制的にリセットしなければならなくなりますが、BIOSセットアップユーティリティ「SETUP」の「Security」メニューの「Power Switch Mask」を「Masked」に設定しておくことで、POWERスイッチの機能が無効になるため、強制シャットダウンができなくなります。万一の場合、強制シャットダウンでExpress5800/ftサーバをリセットできるように次の手順に従ってExpress5800/ftサーバの設定を変更しておいてください。

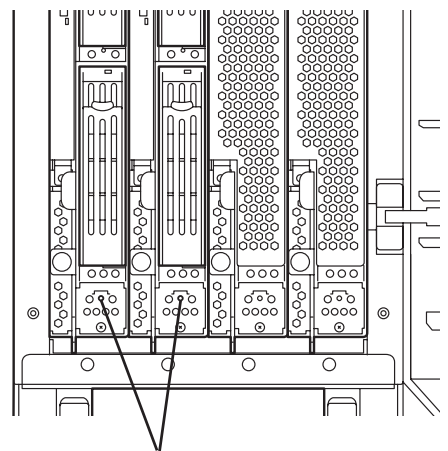
1. Express5800/ftサーバの電源をONにして、BIOSセットアップユーティリティ「SETUP」を起動する(5-2ページ参照)。
2. 「Security」メニューの「Power Switch Mask」を「UnMasked」に設定する。
3. 設定内容を保存して、SETUPを終了する。

## メモリダンプの採取

障害が発生し、メモリダンプを採取したいときにDUMPスイッチを押してください。スイッチを押すときには金属製のピン(太めのゼムクリップを引き伸ばして代用可)をスイッチ穴に差し込んでスイッチを押します。スイッチを押すと、メモリダンプは設定されている保存先に保存されます(CPUがストールした場合などではメモリダンプを採取できない場合があります)。



つま楊枝やプラスチックなど折れやすいものを使用しないでください。



DUMPスイッチ

# IPMI情報のバックアップ

IPMI情報を採取します。情報を採取するためには、ESMPRO/ServerAgentがインストールされていないと表示されません。

1. スタートメニューから[プログラム]—[ESMPRO ServerAgent]—[ESRASユーティリティ]を選ぶ。

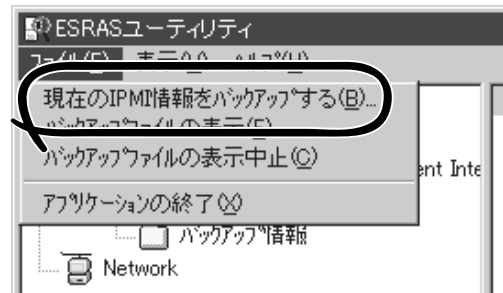
[ESRASユーティリティ]ウィンドウが表示されます。

2. ツリービューより[最新情報]を選択して、ローカルコンピュータの情報を取得する。

データが表示されれば取得ができたこととなります。

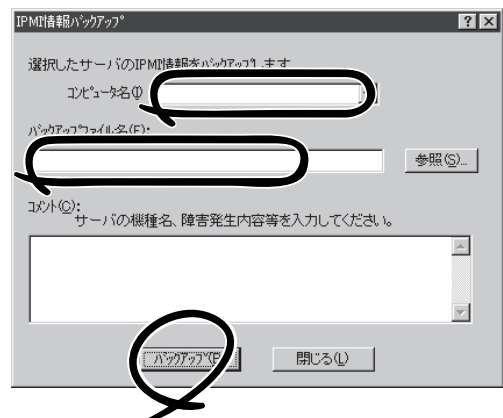


3. [ファイル]メニューから[現在のIPMI情報をバックアップする]をクリックする。



4. バックアップ対象のコンピュータ名を確認する。

5. 退避するバックアップファイル名と保存する場所を指定して[バックアップ]をクリックする。





# システムの修復

システムの修復には以下の2つの方法があります。

修復プロセス： OSを再起動させるために必要なファイルが破損した場合に修復する方法です。

回復コンソール： 何らかの原因でシステムを稼働できなくなった場合は、回復コンソールを使用してシステムの修復を行います。ただし、この方法は詳しい知識のあるユーザや管理者以外にはお勧めできません。

OSを動作させるために必要なファイルが破損した場合は、「修復プロセス」を使ってシステムを修復してください。



- システムの修復後には8-76ページの「システムのアップデート」を参照して必ず、各種ドライバをアップデートしてください。
- ハードディスクドライブが認識できない場合は、システムの修復はできません。

## 準備

ここで説明する「システムの修復」では「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」と呼ばれるサポートディスクが必要です。

システムの修復を始める前に「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」を用意してください。

## Express5800/ftサーバを利用して作成する場合 (EXPRESSBUILDERによりExpress5800/ftサーバを 起動して作成する場合)

以下の手順で、「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」を作成してください。なお、「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」の作成を完了するためには、Windowsが動作するシステムが必要となります。

1. 3.5インチフロッピーディスクを1枚用意する。
2. 周辺装置、Express5800/ftサーバの順に電源をONにする。
3. 起動監視機能の設定を無効にする。

「Advanced」→「Monitoring Configuration」の「Boot Monitoring」の設定を「Disabled」に設定してください。詳細についてはStep A-2またはStep B-3の「起動監視機能の設定を無効にする」(3-23ページまたは3-40ページ)を参照してください。

4. Express5800/ftサーバのCD-ROMドライブに添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットする。
5. CD-ROMをセットしたら、リセットする(<Ctrl>+<Alt>+<Delete>キーを押す)か、電源をON/OFFしてExpress5800/ftサーバを再起動する。

CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。

6. [ツールメニュー]から[サポートディスクの作成]を選択する。
7. [サポートディスクの作成]メニューから[Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER]を選択する。
8. 画面の指示に従ってフロッピーディスクをセットし、処理を進める。
9. 以下のメッセージが表示されたら、[継続]を押して、処理を進める。



10. 処理が完了したら、Windowsが動作しているシステムにおいて、以降の操作を行う。
11. FD装置に手順8で作成したフロッピーディスクをセットする。
12. CD-ROM装置にWindows 2000 Advanced Server CD-ROMをセットする。
13. コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行する。

<CD-ROMドライブ名>:  
CD ¥I386  
EXPAND.EXE-r USBSTOR.SY\_<FD装置ドライブ名>:¥

#### **重要**

修復プロセスおよび回復コンソールを使用したシステムの修復を行わずにシステムの運用を行う場合は、起動監視機能の設定を「有効」にしてください。「Advanced」-「Monitoring Configuration」の「Boot Monitoring」の設定を「Enabled」に設定してください。詳細については「Step C-8 起動監視機能の設定を有効にする」(3-76ページ)を参照してください。

以上で「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」が作成されます。  
作成した「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」はライトプロテクトを行い、ラベルを貼って大切に保管してください。

## Windows Server 2003、Windows XP、Windows 2000、Windows NT4.0、またはWindows 95/98/Meで動作するコンピュータを利用して作成する場合

以下の手順でも「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」を作成することができます。

1. 3.5インチフロッピーディスクを1枚用意する。
2. 添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをWindows Server 2003、Windows XP、Windows 2000、Windows NT 4.0、Windows 95/98/Meで動作するコンピュータのCD-ROMドライブにセットする。
3. [ソフトウェアのセットアップ]から「OEMディスクの作成」を選択する。
4. 画面の指示に従ってフロッピーディスクをセットし、処理を進める。
5. 以下のメッセージが表示されたら、何かキーを押して、処理を完了させる。

Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDERの作成を完了させるためには、本処理終了後にコマンドプロンプトにおいて、以下の操作を行う必要があります。  
詳細はユーザーズガイドを確認してください。

操作：

CD-ROM装置にWindows 2000のCD-ROMをセットした後、  
以下のコマンドを実行します。

<CD-ROMドライブ名>:

CD ¥1386

EXPAND.EXE -r USBSTOR.SY\_<FD装置ドライブ名>:¥

6. CD-ROM装置にWindows 2000 Advanced Server CD-ROMをセットする。
7. コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行する。

<CD-ROMドライブ名>:

CD ¥1386

EXPAND.EXE -r USBSTOR.SY\_<FD装置ドライブ名>:¥

以上で「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」が作成されます。

作成した「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」はライトプロテクトを行い、ラベルを貼って大切に保管してください。

# 「Express5800/ftサーバシリーズft制御ソフトウェア (Ver:n.n) UPDATE CD-ROM」がある場合

以下の手順により、「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」を作成してください。

1. 3.5インチフロッピーディスクを1枚用意する。
2. 添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをWindows Server 2003、Windows XP、Windows 2000、Windows NT 4.0、Windows 95/98/Meで動作するコンピュータのCD-ROMドライブにセットする。
3. タスクバーの[スタート] から「ファイル名を指定して実行」を選択して以下を実行する。  
CD-ROMドライブ：¥WINNT¥BIN¥MAKEFD¥W2K¥MAKEOEM.BAT LANGJPN



LANGJPNは引数です。必ず指定してください。

4. 画面の指示に従ってフロッピーディスクをセットし、処理を進める。
5. 以下のメッセージが表示されたら、何かキーを押して、処理を完了させる。

Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDERの作成を完了させるためには、本処理終了後にコマンドプロンプトにおいて、以下の操作を行う必要があります。  
詳細はユーザーズガイドを確認してください。

操作：

CD-ROM装置にWindows 2000のCD-ROMをセットした後、  
以下のコマンドを実行します。

<CD-ROMドライブ名>:

CD ¥I386

EXPAND.EXE -r USBSTOR.SY\_ <FD装置ドライブ名>:¥

6. CD-ROM装置にWindows 2000 Advanced Server CD-ROMをセットする。
7. コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行する。

<CD-ROMドライブ名>:

CD ¥I386

EXPAND.EXE -r USBSTOR.SY\_ <FD装置ドライブ名>:¥

以上で「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」が作成されます。

作成した「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」はライトプロテクトを行い、ラベルを貼って大切に保管してください。

# 修復プロセス

次の手順に従ってシステム修復ディスクではなく、ディスクの中の情報を使って修復してください。



システムを修復するには「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」と呼ばれるサポートディスクが必要です。システムの修復を始める前に「準備」(8-65ページ)を参照し、「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」を用意してください。

1. 起動監視機能の設定を無効にする。  
「Advanced」-「Monitoring Configuration」の「Boot Monitoring」の設定を「Disabled」に設定してください。詳細については、Step A-2またはStep B-3の「起動監視機能の設定を無効にする」(3-23ページまたは3-40ページ)を参照してください。
2. システムの電源をONにする。
3. Express5800/ftサーバのCD-ROMドライブにWindows 2000 CD-ROMをセットする。
4. Windows 2000 CD-ROMをCD-ROMドライブにセットしたら、リセットする(<Ctrl>+<Alt>+<Delete>キーを押す)か、電源をOFF/ONしてExpress5800/ftサーバを再起動する。
5. 画面上に次のメッセージが表示されたら、任意のキーを押してCD-ROMから起動する。

Press any key to boot from CD...



メッセージが表示されている間に任意のキーを押さないとハードディスクドライブから起動します。修復プロセスは起動できません。

6. 画面下に次のメッセージが表示されたら、すばやく<F5>+<F6>キーを押す。

Press F6 if you need to install a third pathi SCSI or RAID driver...



<F5>+<F6>キーを押さないと修復プロセス、および回復コンソールは起動しません。次の手順7のHAL選択画面が表示されなかった場合は、システムを再起動してWindows 2000 Advanced Server CD-ROMの起動からやり直してください。

7. HAL を選択する画面が表示されるので、以下を実行する。  
(a) 「Other」(既定値)を選択し、[Enter]キーを押下する。

Setup could not determine the type of computer you have, or you have chosen to manually specify the computer type.

Select the computer type from the following list, or select "Other" if you have a device support disk provided by your computer manufacturer.

To scroll through the menu items press up arrow or down arrow.

```
=====
_ Standard PC _
_ Standard PC with C-Step i486 _
_ SCSI _
_ Other _
=====
```

- (b) 「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」をフロッピーディスクドライブにセットし、[Enter]キーを押下する。

Please insert the disk labeled  
Manufacture-supplied hardware support disk  
into Drive A:

\* Press ENTER when ready.

- (c) フロッピーディスク内にあるHALを指定し、[Enter]キーを押下する。

You have chosen to configure a computer for use with Windows 2000,  
using a device support disk provided by the computer's manufacturer.

Select the computer type from the following list, or press ESC  
to return to the previous screen.

To scroll through the menu items press up arrow or down arrow.

-----  
\_ Stratus Fault-Tolerant IA32 \_  
-----

8. SCSIドライバを選択する画面が表示されるので、以下の手順を実行する。

- (a) [S]キーを押下する。

Setup could not determine the type of one or more mass storage devices  
installed in your system, or you have chosen to manually specify an adapter.  
Currently, Setup will load support for the following mass storage device(s):

<none>

\* To specify additional SCSI adapters, CD-ROM drives, or special  
disk controllers for use with Windows 2000, including those for  
which you have a device support disks from a mass storage device  
manufacturer, press S.

\* If you do not have any device support disks from a mass storage  
device manufacturer, or do not want to specify additional  
mass storage devices for use with Windows 2000, press ENTER.

- (b) 「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」をフロッピーディスクドライブにセットし、[Enter]キーを押下する。

Please insert the disk labeled  
Manufacture-supplied hardware support disk  
into Drive A:

\* Press ENTER when ready.

- (c) フロッピーディスク内にあるすべてのSCSIドライバを指定し、[Enter]キーを押下する。

You have chosen to configure SCSI Adapter for use with Windows 2000, using a device support disk provided by the computer's manufacturer.

Select the SCSI Adapter you want from the following list, or press ESC to return to the previous screen.

```
=====
_ Stratus Virtual Disk Driver _
_ Stratus QL12160-based Hardened SCSI HBA _
_ NEC USB FDD UF000x _
=====
```

### 重要

- 「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」には複数のSCSIドライバがあります。手順8-(a)~(c)を繰り返し、表示されているフロッピーディスクを内のすべてのSCSIドライバを選択してください。

Setup will load support for the following mass storage device(s):  
Stratus Virtual Disk Driver  
Stratus QL12160-based Hardened SCSI HBA  
NEC USB FDD UF000x

\* To specify additional SCSI adapters, CD-ROM drives, or special disk controllers for use with Windows, including those for which you have a device support disks from a mass storage device manufacturer, press S.

\* If you do not have any device support disks from a mass storage device manufacturer, or do not want to specify additional mass storage devices for use with Windows, press ENTER.

- システムにインストールした回復コンソールの起動を行った場合、手順9の画面が表示されるまでしばらくの間、画面が真っ暗になりますが、システムは動作しています。しばらくそのままお待ちください。

9. 次のメッセージが表示されるので[R]キーを押す。

Windows 2000 Server セットアップ  
セットアップへようこそ

セットアッププログラムのこの部分では、Microsoft(R) Windows 2000(R)のインストールと設定を準備します。

- ・ Windowsのセットアップを開始するには、Enterキーを押してください。
- ・ インストール済みのWindowsを使って修復するには、Rキーを押してください。
- ・ Windowsをインストールしないでセットアップを終了するには、F3キーを押してください。

10. キーボードの種類を選択する。

11. 選択を求められたら、<R>キーを押してシステム修復処理を選択する。

**Windows 2000 修復オプション**

- ・回復コンソールを使ってインストール済みのWindows 2000 を修復するには C キーを押してください。
- ・システムの修復処理を使ってインストール済みのWindows 2000 を修復するには R キーを押してください。

12. 選択を求められたら、次のうちのどちらかを選択する。

[手動修復]<M>キーを押す) 高度なユーザーがシステム管理者以外はこのオプションを選択しないでください。このオプションを使うと、システムファイル、パーティションブートセクタ、およびスタートアップ環境の問題を修復することができます。

[高速修復]<F>キーを押す) このオプションは使い方がとても簡単で、ユーザーは何もする必要はありません。このオプションを選択すると、システム修復ディスクプログラムが、システムファイル、システムディスクのパーティションブートセクタ、およびスタートアップ環境(システムに複数のオペレーティングシステムがインストールされている場合)に関連した問題の修復を開始します。

13. 画面に表示される指示に従って操作し、システム修復ディスクを挿入するよう求める画面では、<L>キーを押す。

ディスクの検査後、システムは一度、再起動されます。



システム修復ディスクを使用しない処理を行います。

14. 手順1～12を繰り返す。

修復処理が開始されます。

修復処理の間に、見つからないファイルや破損したファイルが、ハードディスクドライブ上C:¥1386のファイルがシステムパーティションのsystemroot¥Repairフォルダのファイルに置き換えられます。置き換えられたファイルは、セットアップ以降に行った構成の変更を一切反映していません。

15. 画面に表示される指示に従って操作する。

障害が検出されたファイルの名前を控えておくと、システムがどのように破損していたのかを診断するのに役立ちます。

16. 修復に成功した場合は処理を終了する。

コンピュータが問題なく再起動したことで置き換えられたファイルがハードディスクドライブに正しくコピーされたことがわかります。

17. システムのアップデートを実行する。

詳細については、8-76ページを参照してください。

18. 起動監視機能の設定を有効にする。

「Advanced」-「Monitoring Configuration」の「Boot Monitoring」の設定を「Enabled」に設定してください。詳細については、「Step C-8 起動監視機能の設定を有効にする」(3-76ページ)を参照してください。



# 回復コンソール

回復コンソールの起動方法は次の2通りあります。

- Windows 2000 Advanced Server CD-ROMから回復コンソールを起動する方法
- インストールした回復コンソールを起動する方法



システムを修復するには「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」と呼ばれるサポートディスクが必要です。システムの修復を始める前に「準備」(8-65ページ)を参照し、「Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」を用意してください。

## Windows 2000 Advanced Server CD-ROMから回復コンソールを起動する方法

Windows 2000 Advanced Server CD-ROMから回復コンソールを起動する方法を以下に示します。

1. 「修復プロセス」(8-69ページ)の手順1～10まで実施する。
2. 次のメッセージが表示されたら<C>キーを押す。

### Windows 2000 修復オプション

- ・回復コンソールを使ってインストール済みのWindows 2000 を修復するには C キーを押してください。
- ・システムの修復処理を使ってインストール済みのWindows 2000を修復するには R キーを押してください。

3. 回復コンソールが起動する。



- 回復コンソールを使用して破損ファイルを修復した場合には、続けて「システムのアップデート(8-76ページ)」を行ってください。
- ファイルの修復を行わずにシステムの運用を行う場合は、起動監視機能の設定を変更してください。「Advanced」―「Monitoring Configuration」の「Boot Monitoring」の設定を「Enabled」に設定してください。詳細については「Step C-8 起動監視機能の設定を有効にする」(3-76ページ)を参照してください。

# システムにインストールした回復コンソールを起動する場合

システムにインストールした回復コンソールを起動する場合は、まず、システムに回復コンソールをインストールして、回復コンソールを起動します。

---

## システムに回復コンソールをインストールする

1. Express5800/ftサーバを起動し、Windows 2000にログオンする。
2. Express5800/ftサーバのCD-ROMドライブにWindows 2000 CD-ROMを挿入する。
3. タスクバーの[スタート]から「ファイル名を指定して実行」を選択し、以下を実行する。  
CD-ROMドライブ：¥i386¥winnt32.exe /cmdons /syspart:c /tempdrive:c
4. 画面の指示に従って回復コンソールをインストールする。

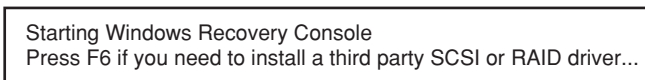
---

## 回復コンソールを起動する

1. 起動監視機能の設定を無効にする。  
[Advanced]—[Monitoring Configuration]の[Boot Monitoring]の設定を「Disabled」に設定してください。詳細については、Step A-2またはStep B-3の「起動監視機能の設定を無効にする」(3-23ページまたは3-40ページ)を参照してください。
2. システムの電源をONにする。
3. オペレーティングシステムの選択で「Microsoft Windows回復コンソール」を選択する。



4. 画面下にメッセージが表示されたら、すばやく<F5>+<F6>キーを押す。



### 重要

<F5>+<F6>キーを押さないと回復コンソールは起動しません。次の手順3のHAL選択画面が表示されなかった場合は、システムを再起動してWindows 2000 Advanced Server CD-ROMの起動からやり直してください。

5. 「修復プロセス」(8-69ページ)の手順7～10を実行する。

6. 次のメッセージが表示されたら<C>キーを押す。

Windows 2000 修復オプション

- ・回復コンソールを使ってインストール済みのWindows 2000 を修復するには C キーを押してください。
- ・システムの修復処理を使ってインストール済みのWindows 2000を修復するには R キーを押してください。

回復コンソールが起動します。

 **重要**

- 回復コンソールを使用して破損ファイルを修復した場合には、続けて「システムのアップデート(8-76ページ)」を行ってください。
- ファイルの修復を行わずにシステムの運用を行う場合は、起動監視機能の設定を変更してください。「Advanced」―「Monitoring Configuration」の「Boot Monitoring」の設定を「Enabled」に設定してください。詳細については「Step C-8 起動監視機能の設定を有効にする」(3-76ページ)を参照してください。

# システムのアップデート



Express5800/ftサーバは精密機器です。システムのアップデートはできるだけ専門的な知識を持った保守サービス会社の保守員に依頼してください。

システムのアップデートは修復プロセスまたは回復コンソールを使用してシステムを修復した場合に行います。



## Windows 2000 Service Pack4の適用について

Express5800/ftサーバは、Windows 2000 Service Pack4が適用された状態で出荷されています。Express5800/ftサーバにアプリケーションをインストールする際などService Pack4を再度、適用する場合には、「Windows Service Packの適用に関する注意」(3-86ページ)の手順に従って実施します。Service Packを適用するためにシステムのアップデートを行う必要はありません。



- 修復プロセスまたは回復コンソールを使用してシステムを修復した場合のシステムのアップデートは、必ず以下の手順を実行してから行ってください。
- 起動監視機能の設定を確認してください。「Advanced」-「Monitoring Configuration」の「Boot Monitoring」の設定が「Disabled」でない場合は、「Disabled」に設定してください。詳細についてはStep A-2またはStep B-3の「起動監視機能の設定を無効にする」(3-23ページまたは3-40ページ)を参照してください。

1. OSインストール済みのシステムで、管理者権限のあるユーザでログインする。



システムが正常に二重化されていることを確認します(装置前面の各PCIモジュールのステータスランプ2が緑色に点灯していることを確認してください。ステータスランプの位置については、2-7ページを参照してください)。

2. LANの二重化を解除する。

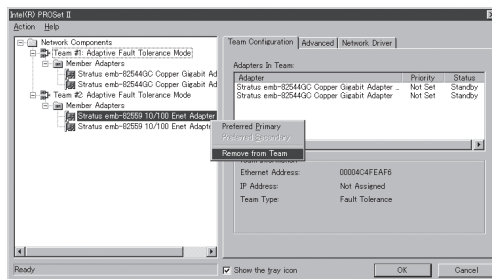
オンボード、オプションボードともに行います。



LANの二重化を解除すると、LANの設定が削除されます。設定の内容は紙などに書き写しておいてください。

- a) [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]をクリックする。  
[コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。
- b) [コントロールパネル]ダイアログボックスの[Intel(R)PROSet II]アイコンをダブルクリックする。  
Intel(R)PROSet II]ダイアログボックスが表示されます。
- c) すべてのアダプタを二重化より取り除く。

[Intel(R)PROSet II]ダイアログボックスの左側のコントロールツリーより以下のアダプタを選択して右クリックし、[Remove from Team]を選択します。



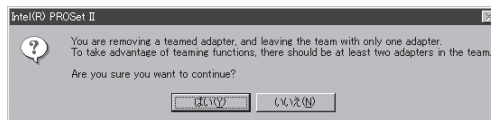
<オンボードの場合>

- Stratus emb-82559 10/100 Enet Adapter
- Stratus emb-82544GC Copper Gigabit Adapter

<オプションボードの場合>

- Stratus AA-U51500 10/100 Enet Adapter(100BASE-TX)
- Stratus AA-U57000 Fiber Gigabit Adapter(1000BASE-SX)
- NEC 8490XT Copper Gigabit Adapter(1000BASE-T)

この時、右のダイアログボックスが表示されます。  
2枚1組で二重化を組んでいるのに対して1枚取り除こうとしたために表示されます。



[はい]をクリックしてください。アダプタがTeamより削除されます。  
もう一方のアダプタに対しても同じように取り除いてください。

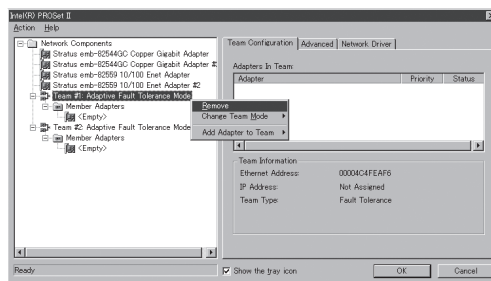
<オンボードの場合>

- Stratus emb-82559 10/100 Enet Adapter
- Stratus emb-82544GC Copper Gigabit Adapter

<オプションボードの場合>

- Stratus AA-U51500 10/100 Enet Adapter(100BASE-TX)
- Stratus AA-U57000 Fiber Gigabit Adapter(1000BASE-SX)
- NEC 8490XT Copper Gigabit Adapter(1000BASE-T)

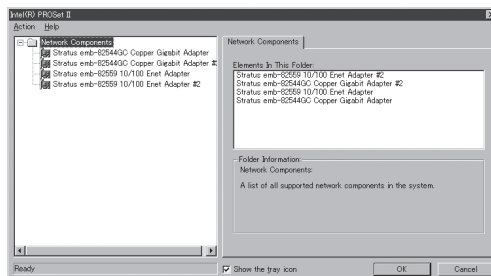
- d) [Team #1:Adaptive Fault Tolerance Mode]を右クリックし、[Remove]を選択する。



この時、右のダイアログボックスが表示されます。  
確認のためのメッセージですので [はい]をクリックしてください。  
[Intel PROSet II]ダイアログボックスに表示されているすべてのTeamを同様の手順で取り除いてください。



- e) [Intel PROSet II]ダイアログボックスの[OK]をクリックし、[Intel PROSet II]ダイアログボックスを終了して設定を有効にする。



以上で二重化は解除されます。

3. Intel(R) PROSet II をアンインストールする。

- a) [スタート]—[設定]—[コントロールパネル]をクリックする。  
[コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。
- b) [コントロールパネル]ダイアログボックスの[アプリケーションの追加と削除]アイコンをダブルクリックする。

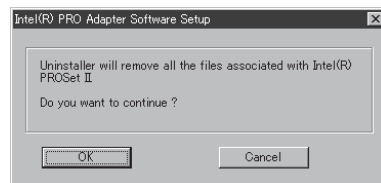
[アプリケーションの追加と削除]ダイアログボックスが表示されます。

- c) [現在インストールされているプログラム:]の一覧より[Intel(R) PROSet II]を選択する。



- d) [変更/削除]をクリックする。  
この時、右のダイアログボックスが表示されます。

削除の確認のメッセージです。[OK]をクリックしてください。



- e) [アプリケーションの追加と削除]ダイアログボックスの[閉じる]をクリックして [アプリケーションの追加と削除]ダイアログボックスを閉じる。

- f) システムを再起動させる。

**重要**

必ずシステムを再起動してからシステムのアップデートを行ってください。再起動を行わずに次の手順(PROSet IIのインストール)を実施した場合、システムを起動してもPROSet IIが起動されません。また、システムの動作が不安定になる場合があります。システムを再起動せずにシステムのアップデートを実施した場合は、以下の手順で再度、PROSet IIをインストールしてください。

1. コマンドプロンプトを起動する。
2. コマンドプロンプトから `c:\%pnpdvrsvs%procomp /proset /s`を実行する。
3. システムを再起動する。
4. LANの二重化を設定する。

4. 再起動後、管理者権限のあるユーザでログインする。

**重要**

システムが正常に二重化されていることを確認します(装置前面の各PCIモジュールのステータスランプ2が緑色に点灯していることを確認してください。ステータスランプの位置については、2-7ページを参照してください)。

## 5. 以下の手順に従ってシステムのアップデートを行う。

**重要**

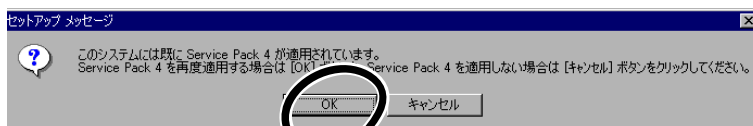
- 手順3でインストールしたIntel(R) PROSet IIはシステムのアップデートで再インストールします。
- アップデートの処理中、データの入出力は行わないでください。

システムのアップデート内でWindows 2000 Service Pack4を適用してください。

(1) システムのアップデートを開始する。

- 「Express5800/ftサーバシリーズft制御ソフトウェアUPDATE CD-ROM」がない場合  
(EXPRESSBUILDER)CD-ROMを使用する場合)
  - a) アカウント (Administratorなど)で、システムにログインした後、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをExpress5800/ftサーバのCD-ROMドライブにセットする。
  - b) 表示された「マスターコントロールメニュー」画面の「ソフトウェアのセットアップ」を左クリックし、メニューから「システムのアップデート」をクリックする。
- 「Express5800/ftサーバシリーズft制御ソフトウェアUPDATE CD-ROM」がある場合
  - a) アカウント (Administratorなど)で、システムにログインした後、「Express5800/ftサーバシリーズft制御ソフトウェアUPDATE CD-ROM」をExpress5800/ftサーバのCD-ROMドライブにセットする。
  - b) タスクバーの[スタート]から[ファイル名を指定して実行]を選択して、CD-ROMドライブ:¥WINNT¥W2K¥UPDATE.EXE  
を実行する。

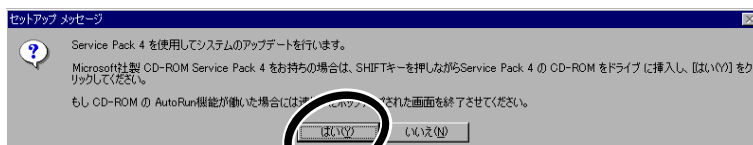
(2) 以下のダイアログボックスが表示されたら、[OK]をクリックする。

**重要**

ここで[キャンセル]をクリックすると、Service Packは適用されないままシステムアップデートをします。

(3) Service Pack 4を適用する。

<Shift>キーを押しながらService Pack 4のCD-ROMを挿入してください。  
CD-ROMを挿入後、[はい]をクリックしてください。



(4) 次に以下のダイアログボックスが表示されるので、ウィザードに従って操作を行う。



### 重要

[ライセンス契約]画面では内容をよく読んでください。

同意する場合は、[同意します]をクリックしてから[次へ]をクリックしてください。

同意しない場合は、[同意しません]をクリックしてから[次へ]をクリックしてください。同意しないとセットアップは終了し、Service Pack 4はインストールされません。

(5) Service Pack 4が適用された後、以下のダイアログボックスが表示される。

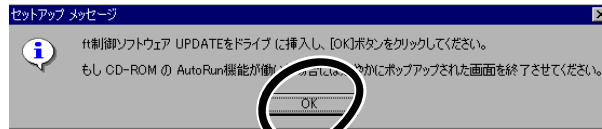
- 「Express5800/ftサーバシリーズft制御ソフトウェアUPDATE CD-ROM」がない場合  
(「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを使用する場合)

<Shift>キーを押しながら「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを挿入してください。挿入後、[OK]をクリックしてください。

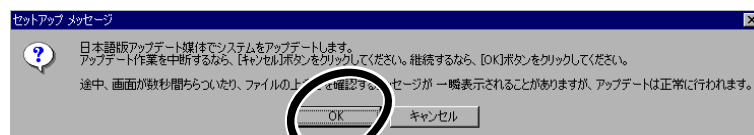


- 「Express5800/ftサーバシリーズft制御ソフトウェアUPDATE CD-ROM」がある場合

Express5800/ftサーバシリーズft制御ソフトウェアUPDATE CD-ROMを挿入してください。挿入後、[OK]をクリックしてください。



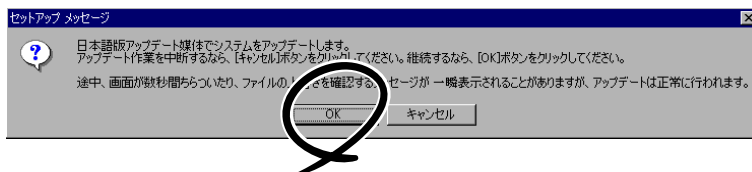
(6) 以下のダイアログボックスが表示されたら、[OK]をクリックする。





6. システムのアップデートの実施を確認するダイアログボックスが表示されたら、[OK]をクリックする。

NECモジュールの適用(ドライバのインストール、ftサーバサービスのインストール)が始まります。メッセージに従って操作してください。



### 重要

アップデート中、Microsoft HotFix適用時に[展開されたファイルのディレクトリの選択]ダイアログボックスが表示されることがあります。この場合、以下の操作を行ってください。

(現象) アップデート中、Microsoft HotFix適用時に[展開されたファイルのディレクトリの選択]ダイアログボックスが表示されることがあります。

(発生条件) システムが認識している全NTFSボリューム中(ネットワーク接続も含む)、最も空き容量が大きいドライブ(\*1)が以下のいずれかの条件に該当する場合に発生します。

- READ\_ONLYのセキュリティ制限が設定されている。
- 十分な空き領域がない。

(\*1) HotFix適用における既定値の一時ファイル展開先。

(対処) [展開されたファイルのディレクトリの選択]ダイアログボックスで、必ず以下の操作を行ってください。

(a) 次の条件を満たすドライブを探す。(NTFS、FATのどちらでも可)

- READ\_ONLYのセキュリティ制限が設定されていない。
- 十分な空き領域がある。

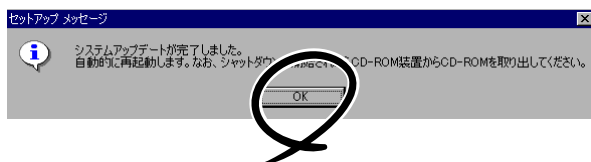
(b) 上記(a)で見つけたドライブに新規で空のディレクトリを作成する。

(c) 「展開されたファイルのディレクトリの選択」に上記(b)で作成したディレクトリを指定する。

(重要) [展開されたファイルのディレクトリの選択]ダイアログボックスでは絶対に既存ディレクトリを指定しないでください。HotFix適用後、指定したディレクトリは削除されます。

7. システムのアップデート終了後、次のダイアログボックスが表示されるので[OK]をクリックする。

再起動が開始されます。再起動が開始されたらCD-ROMドライブからCDを取り出してください。



## 重要

アップデート処理中、「Windows -FTの孤立化 フォールトトレラントボリュームの一部であるディスクにアクセスできません」のメッセージが表示され、その後の再起動において、OS ストップエラーとなる場合があります。OS ストップエラーが発生した場合には、以下の手順を実施してください。なお、システムのアップデートは正常に行われておりますが、ディスクのミラーは外れています。手順7で必ずディスクのミラーを確認してください。

- ① POWERスイッチを長押ししてシステムの電源をOFFにする。
- ② PCIモジュール(グループ1用/グループ2用)の2つのBMCステータスランプが消灯していることを確認する。

(重要) BMCステータスランプが「赤色点滅中」の場合は、手順③以降の操作は行わないでください。BMCファームウェアが破壊されるおそれがあります。BMCステータスランプの位置については、2-7ページを参照願います。

- ③ POWERスイッチが緑色に点灯しているPCIモジュールを特定する。

このときPCIモジュール(グループ1用)とPCIモジュール(グループ2用)のどちらのPOWERスイッチが緑色に点灯しているか覚えておきます。その後、以下のACインレットに接続された電源コードを抜きます。

ACインレットの位置については2-11ページの「装置背面」を参照願います。

- PCIモジュール(グループ1用)のPOWERスイッチが緑色に点灯している場合  
装置背面の「②ACインレット」(上部のACインレット。詳細は2-11ページの「装置背面」参照。)に接続された電源コードを抜く。
  - PCIモジュール(グループ2用)のPOWERスイッチが緑色に点灯している場合  
装置背面の「⑤ACインレット」(下部のACインレット。詳細は2-11ページの「装置背面」参照。)に接続された電源コードを抜く。
- ④ 手順③で覚えておいたPCIモジュールと違う側のPCIモジュールのPOWERスイッチが緑色に点灯することを確認する。
  - ⑤ 手順③で抜いた電源コードを元通りに接続する。
  - ⑥ PCIモジュール(グループ1用/グループ2用)の2つのBMCステータスランプが「消灯」することを確認して、手順⑦以降の操作を行う。

(重要) BMCステータスランプが「赤色点滅中」の場合は、手順⑦以降の操作は行わないでください。BMCファームウェアが破壊されるおそれがあります。BMCステータスランプの位置については、2-7ページを参照願います。

- ⑦ 手順④でPOWERスイッチが緑色に点灯していることを確認したPCIモジュールのPOWERスイッチを押下し、システムの電源をONにする。

8. ディスクのミラーを確認する。

ディスクのミラーが外れている場合はミラーの再設定を行ってください。

## 重要

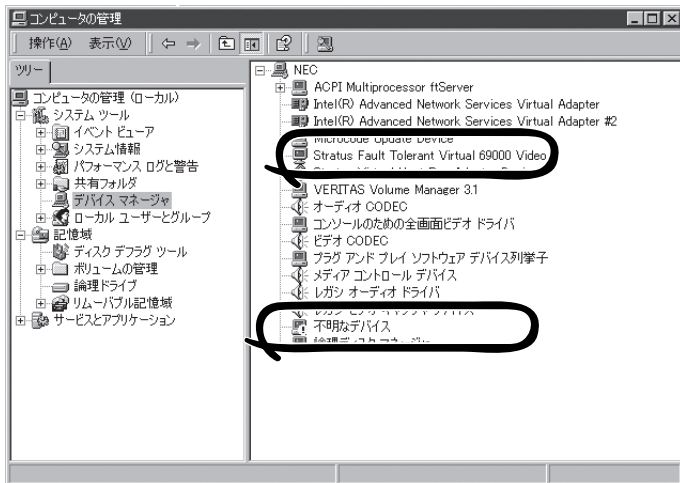
- ディスクのミラーの確認方法は、「Step C-3 ディスクの二重化を設定する」(3-68ページ)を参照してください。
- ディスクが再同期中の場合は、再同期が終了するまでシャットダウンは行わないでください。

9. デバイスマネージャを起動し、[表示]メニューの[デバイス(接続別)]を選択して以下の操作を行う。

(a) 下図の枠で囲ったデバイスエントリを削除する。

### 重要

「ACPI Multiprocessor ftServer」記下の「Stratus Fault Tolerant 69000 Video」は削除しないようにしてください。



削除するデバイスエントリ

- Stratus Fault Tolerant 69000 Video
- ! 不明なデバイス

a-1. 該当デバイスを選択して右クリックし、「削除」を選択する。

a-2. [削除の確認]ダイアログボックスが表示されますので、デバイス名を確認の上、[OK]をクリックする。

10. オプションボードが接続されている場合は、以下のオプションごとの操作を実行する。

手順5で使用したCD-ROMを使用して以下の操作を行ってください。

(a) N8804-001P1(100BASE-TX接続ボード)が接続されている場合

a-1. [コマンドプロンプト]を実行する。

a-2. コマンドプロンプトから以下のコマンドを実行してCD-ROMドライブに移動する。

C:¥> CD-ROMドライブ:

a-3. コマンドプロンプトから以下のコマンドを実行してバッチファイルがあるフォルダに移動する。

CD-ROMドライブ:¥> cd¥WINNT¥W2K¥JP

a-4. コマンドプロンプトから以下のコマンドを実行して、ドライバを更新する。

CD-ROMドライブ:¥WINNT¥W2K¥JP > N8804001.BAT

a-5. 以下のドライバの更新完了メッセージが表示される。

[[ドライバの更新 完了]

何かキーを押して終了してください。]

(b) N8803-002(SCSIコントローラ)が接続されている場合

- b-1. [コマンドプロンプト]を実行する。
- b-2. コマンドプロンプトから以下のコマンドを実行してCD-ROMドライブに移動する。  
C:¥> CD-ROMドライブ:
- b-3. コマンドプロンプトから以下のコマンドを実行してバッチファイルがあるフォルダに移動する。  
CD-ROMドライブ:¥> cd¥WINNT¥W2K¥JP
- b-4. コマンドプロンプトから以下のコマンドを実行して、ドライバを更新する。  
CD-ROMドライブ:¥WINNT¥W2K¥JP > N8803002.BAT
- b-5. 以下のドライバの更新完了メッセージが表示される。  
「[ドライバの更新 完了]  
何かキーを押して終了してください。」

(c) N8803-030/031(Fibre Channelコントローラ)が接続されている場合

- c-1. [コマンドプロンプト]を実行する。
- c-2. コマンドプロンプトから以下のコマンドを実行してCD-ROMドライブに移動する。  
C:¥> CD-ROMドライブ:
- c-3. コマンドプロンプトから以下のコマンドを実行してバッチファイルがあるフォルダに移動する。  
CD-ROMドライブ:¥> cd¥WINNT¥W2K¥JP
- c-4. コマンドプロンプトから以下のコマンドを実行して、ドライバを更新する。  
CD-ROMドライブ:¥WINNT¥W2K¥JP > N8803030.BAT
- c-5. 以下のドライバの更新完了メッセージが表示される。  
「[ドライバの更新 完了]  
何かキーを押して終了してください。」

(d) N8104-84(1000BASE-SX接続ボード)が接続されている場合

- d-1. [コマンドプロンプト]を実行する。
- d-2. コマンドプロンプトから以下のコマンドを実行してCD-ROMドライブに移動する。  
C:¥> CD-ROMドライブ:
- d-3. コマンドプロンプトから以下のコマンドを実行してバッチファイルがあるフォルダに移動する。  
CD-ROMドライブ:¥> cd¥WINNT¥W2K¥JP
- d-4. コマンドプロンプトから以下のコマンドを実行して、ドライバを更新する。  
CD-ROMドライブ:¥WINNT¥W2K¥JP > N810484.BAT
- d-5. 以下のドライバの更新完了メッセージが表示される。  
「[ドライバの更新 完了]  
何かキーを押して終了してください。」

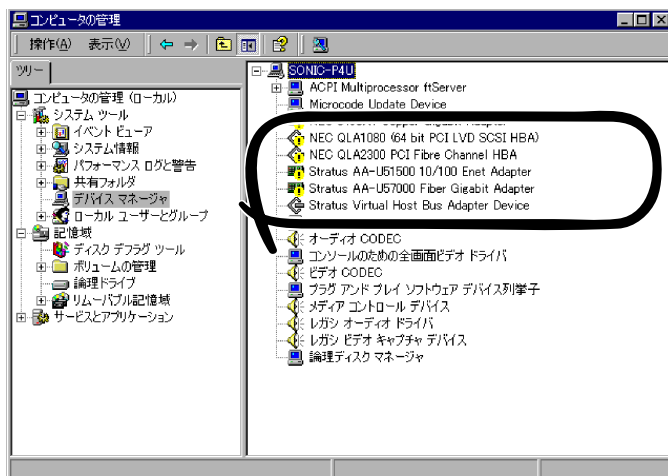
(e) N8104-103(1000BASE-T接続ボード)が接続されている場合

- e-1. [コマンドプロンプト]を実行する。
- e-2. コマンドプロンプトから以下のコマンドを実行してCD-ROMドライブに移動する。  
C:¥> CD-ROMドライブ:
- e-3. コマンドプロンプトから以下のコマンドを実行してパッチファイルがあるフォルダに移動する。  
CD-ROMドライブ:¥> cd¥WINNT¥W2K¥JP
- e-4. コマンドプロンプトから以下のコマンドを実行して、ドライバを更新する。  
CD-ROMドライブ:¥WINNT¥W2K¥JP > N8104103.BAT
- e-5. 以下のドライバの更新完了メッセージが表示される。  
[[ドライバの更新 完了]  
何かキーを押して終了してください。]

### 重要

接続されていないオプションボードの操作を誤って実行した場合は、以下の操作を行ってください。

(現象) 接続されていないオプションボードの操作を誤って実行した場合、接続されていないオプションボードがデバイスマネージャ上で「!」付きで表示されます。(以下はデバイスマネージャを起動し、[表示]メニューの[デバイス(接続別)]を選択した際の画面です)



- ← 誤ってeを実行
- ← 誤ってbを実行
- ← 誤ってcを実行
- ← 誤ってaを実行
- ← 誤ってdを実行

(対処) デバイスマネージャを起動し、[表示]メニューの[デバイス(接続別)]を選択し、以下の操作を行ってください。

- (a) 接続されていないオプションボード(上記図の四角で囲ったデバイスエントリ)を削除します。

削除するデバイスエントリ：

- (!)NEC 8490XT Copper Gigabit Adapter ← 誤ってeを実行
- (!)NEC QL A1080 (64 bit PCI LVD SCSI HBA) ← 誤ってbを実行
- (!)NEC QL A2300 PCI Fibre Channel HBA ← 誤ってcを実行
- (!)Stratus AA-U51500 10/100 Enet Adapter ← 誤ってaを実行
- (!)Stratus AA-U57000 Fiber Gigabit Adapter ← 誤ってdを実行

a-1. 該当デバイスを選択して右クリックし、「削除」を選択します。

a-2. 削除の確認ダイアログが表示されますので、デバイス名を確認の上、[OK]をクリックします。

11. システムを再起動させる。
12. 再起動後、管理者権限のあるユーザでログインする。

 **重要**

システムが正常に二重化されていることを確認します(装置前面の各PCIモジュールのステータスランプ2が緑色に点灯していることを確認してください。ステータスランプの位置については、2-7ページを参照してください)。

13. 再度、LANの二重化を行う。

オンボード、オプションボード共に行います。

3-66ページの「Step C-2 LANの二重化を設定する」および「N8804-001P1 100BASE-TX接続ボード」(9-39ページ)、「N8104-84 1000BASE-SX 接続ボード」(9-42ページ)、「N8104-103 1000BASE-T 接続ボード」(9-44ページ)を参照してください。書き写しておいたLANの設定をもとに設定し直してください。

14. 起動監視機能の設定を有効にする。

「Advanced」-「Monitoring Configuration」の「Boot Monitoring」の設定を「Enabled」に設定してください。詳細については、「Step C-8 起動監視機能の設定を有効にする」(3-76ページ)を参照してください。